2018年度シラバス

| 科目名:ＮＧＯ・ＮＰＯ論 | 担当者:成田　弘成 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 3 |
| 受講者制限:特になし | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
国際援助におけるNPO・NGO(非政府組織)の組織と構造と、運営のあり方について学ぶとともに、国際機関や企業などとの連携のあり方などについても理解を深める。更に国際ボランティア活動への参加の方法・運営に関して必要な知識と実践技術を学ぶ。講義においては国際NGO等の活動の事例を取り上げながら、そのあり方や今後の課題等について学び、学生達が将来の選択肢の一つとして国際NGOを認識することを目指す。

授業の到達目標
NGOの勉強は、国際社会への理解度を高めるもので、具体的に以下の目標を達成できるようにしましょう。(1)ODA（政府開発援助）に対するNGOの存在意義を学ぶ。　(2)NGOの在り方の多様性を知ること。(3)NGOのマネジメントについて理解すること。(4)NGO活動の発展の歴史について学ぶこと。(5)NGO活動への実践的な参加の方法について学びこと、等々。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎週、予習範囲を指定するので、事前に資料を読み、予備知識を持つこと。授業後は、当日のテーマ内容にそって、出来るだけ多くの関連資料をメディア等で検索し、その成果を発表できるように心掛けること。また機会があれば、地域で開催されるボランティア活動にも参加し、実践的意義を確認してください。期末レポートは、専門的な資料により、現在の学問レベルを確認できる機会なので、英文の資料にも挑戦してみてください。

評価方法
配点は、授業への参加態度30％　小テスト30％　期末レポート40％。

| 教科書<br>特になし。 | 参考図書<br>その都度、資料の指示をします。 |
|---|---|

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
担当教員の研究室は7号館3階。オフィスアワーは月曜日の昼休み12時30分から13時。

| | |
|---|---|
| 01 | NGO・NPOの概念と方法 |
| 02 | 国際ボランティアとNGO |
| 03 | バングラデシュのグラミン銀行 |
| 04 | スリランカのサルボダヤ運動 |
| 05 | インドのマザーハウス |
| 06 | 英国のNGO: オックスファム |
| 07 | 英国のNGO：その他 |
| 08 | 米国のNGO |
| 09 | フランスのNGO:国境なき医師団 |
| 10 | 医療NGOと国際赤十字 |
| 11 | ネパール母の家: 人身売買 |
| 12 | ハイチにおける医療活動: 災害救助 |
| 13 | タイにおけるNGO活動 |
| 14 | アジアにおけるNGO活動 |
| 15 | 今後の国際NGOの役割 |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:現代社会と企業 | 担当者:森田　優己 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 3 |
| 受講者制限:なし | | 単位数 | 2 |
| | | 必須. 選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
私たちの生活は、企業が販売する製品やサービスを購入し、それらを消費することによって成り立っている。また、多くの人は組織とりわけ企業に雇用されて、生活のためのお金を得ている。本講義では、現代社会に不可欠な企業という「協働システム」とは何か、この組織と個人の関係について学ぶ。これらの学修は、桜花学園大学の建学の精神である社会の発展に寄与する「信念ある女性」の育成教育の一環をなす。最後に、レポートを課す。

授業の到達目標
就職し「社会人」になるということは、「組織人」として行動することが求められることであるということを理解することができる。その上で、個人ではできないことをやりとげるためにつくられた「協働システム」としての組織のあり方や個人との関わり方について、自らの考えをもつことができるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業の進行に合わせて具体的な事例を自分で調べること、自分の考えを述べることが求められる。また、教員や他の学生の意見を参考にして授業内容を自分自身の社会人スキルとして高めていく努力が必要となる。そのため、毎週2時間から4時間の授業外学修が必要である。

評価方法
授業への参加態度50%、レポート50%。

| 教科書<br>使用せず | 参考図書<br>授業中に指示する |
|---|---|

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業時間外での質問は、オフィスアワーに研究室で受け付ける。この時間以外については、メールでアポイントをとること。オフィスアワーの時間とメールアドレスは、授業時間内に開示する。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション |
| 02 | 業界と企業の形態 |
| 03 | 株式会社のしくみ |
| 04 | 企業は生き物 |
| 05 | 企業組織の基本的な仕組み |
| 06 | 労働とマネジメント |
| 07 | 労使関係と労働組合 |
| 08 | 経営戦略の基礎 |
| 09 | 多様な経営戦略論 |
| 10 | ものが売れる仕組み |
| 11 | ものをつくる仕組み |
| 12 | 経済と企業の関係 |
| 13 | 企業の社会的責任と企業倫理 |
| 14 | 新しい企業と経営のあり方 |
| 15 | まとめ |
| 16 | 定期試験（レポート） |

2018年度シラバス

| 科目名:地域協力演習 | 担当者:根尾　文彦 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 3 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
本授業ではディプロマポリシーに沿って、修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力を身につけることが望まれる。少子高齢社会である我が国が今後発展するためには「地域の活性化」が重要なテーマとなっています。本授業では大学が存する地域の歴史、文化、伝統、生活様式などを知るとともに、大学生としてどのように地域と交流し、どのように地域に貢献できるかをフィールドワーク実習を通して学習します。フィールドワークは時間的理由から正規授業時間外で実施する場合があります。（下記の授業外での学修活動を参照）

授業の到達目標
現代社会において如何に「地域力」が重要であるかを学びます。先ずは大学が所在する地元である、豊明、有松、桶狭間地区の歴史、文化、伝統などについて学びそれぞれが抱える課題などを抽出します。それを踏まえて、自分の住む町について、もう一度調べ直すことにより再認識し、課題を抽出して課題解決に向けて各自の提案をまとめる力を付けます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
フィールドワークで訪れる地域及び自分の住む町に関心を持ち、文献、資料などから情報を収集する。フィールドワークは現地までの移動時間、現地での調査などにおいて時間が掛かるため、通常の授業時間帯でなく、全員が揃う日時（場合によっては土・日・休日を含む）にて実施する場合がある。受講生確定後、速やかに決定するが、その場合は通常授業時間は振り替えとする。

評価方法
授業への参加態度（50%）、フィールドワークレポート内容（30%）、発表内容（20%）

| 教科書<br>特になし、プリント等を配布 | 参考図書<br>授業内で指示する |
|---|---|

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先　neo@ohkagakuen-u.ac.jp研究室　7307号室

| | |
|---|---|
| 01 | 現代の「地方創生」の概念 |
| 02 | 豊明市の概要を学ぶ（講義） |
| 03 | 豊明市フィールドワーク（豊明市の企業など） |
| 04 | フィールドワークのまとめ、レポート作成（グループワーク） |
| 05 | 有松地区（古い町並み、山車、有松絞り）を学ぶ（講義） |
| 06 | 有松地区フィールドワーク |
| 07 | 有松絞り創作体験（約2,000円実費必要） |
| 08 | フィールドワークのまとめ、レポート作成（グループワーク） |
| 09 | 桶狭間の戦いを学ぶ（講義） |
| 10 | 桶狭間地区フィールドワーク |
| 11 | フィールドワークのまとめ、レポート作成（グループワーク） |
| 12 | 私の住む町を学ぶ（歴史、文化、生活等） |
| 13 | 私の住む町を学ぶ（フィールドワーク） |
| 14 | 私の住む町を学ぶ（まとめ、レポート作成） |
| 15 | 私の住む町を学ぶ（レポート発表） |
| 16 | |

2018年度シラバス

| 科目名:インターンシップ（国内） | 担当者:根尾　文彦 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 前期･後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須. 選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
原則として夏季・春季休み期間を利用して、一般企業、各種団体などにおいて職場体験を通して、それぞれの組織の仕組み、仕事の流れ及び労働への理解を深める。卒業後のキャリアプラン（就職活動を含む）の設定において、自分が将来希望する職種などについて実習を通して学ぶことは非常に有意義である。最近は各企業もインターンシプをかなり強化している。基本実習機関は2週間または60時間以上とする。

授業の到達目標
①一般社会は組織体制の中で成り立っており、その中で大切なチームワークとコミュニケーション力を実践で学ぶ。②実習では企業等が一般社会の中で如何に貢献しているか実体験を通して学習する。③卒業後のキャリアプランを見据えた業界情報を習得する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
社会人生活を意識して、新聞、本、ＴＶ等から様々な情報を入手し、特に社会情報に対して強い関心を持つ。

評価方法
インターンシッププログラム全体を通した取り組み姿勢（70%）、受入れ機関の個人評価（10%）、研修日程の内容及びプレゼンテーションの内容（20%）などを総合して評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 特になし | 授業中に指示する |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先　neo@ohkagakuen-u.ac.jp研究室　7307号室

| | |
|---|---|
| 01 | インターンシップ説明会 |
| 02 | インターンシップ受講申込み手続き（エントリーシート） |
| 03 | 学内面接 |
| 04 | 外部講師などによるビジネスマナー研修 |
| 05 | インターンシップ受入れ機関に関する学内事前研修① |
| 06 | インターンシップ受入れ機関に関する学内事前研修② |
| 07 | インターンシップ受入れ機関に関する学内事前研修③ |
| 08 | インターンシップ受入れ機関への事前挨拶訪問 |
| 09 | インターンシップ受入れ機関にて実習① |
| 10 | インターンシップ受入れ機関にて実習② |
| 11 | インターンシップ受入れ機関にて実習③ |
| 12 | インターンシップ受入れ機関にて実習④ |
| 13 | インターンシップ受入れ機関にて実習⑤ |
| 14 | インターンシップ学内事後研修（研修のまとめ） |
| 15 | インターンシップ体験発表 |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:ボランティア（国内） | 担当者:Donovan Clarke | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 実技 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期・後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
　NPO/NGO、企業、政府機関、私立機関、観光機関等でボランティア活動に参加することにより、学生たちが成長し、経験し、コミュニティ精神を養うことを目的とする。子ども達、障害を持つ人、貧しい人、病める人、環境やコミュニティ全体を助ける等が実践例として考えられる。その他の活動も可能であり、担当者とともに話し合って決定する。１年次の後期から４年次まで実習可能であるが、４年次の１月までにボランティア活動は完了している必要がある。

授業の到達目標
　本実習授業では、学生に、他者やコミュニティを助ける貴重な経験を与えることを目標とする。こうした活動を通して、卒業後も人生を通して様々な分野で活かすことのできるボランティア精神を養うことが期待される。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
活動実施条件１　国内でのボランティア活動を４０時間以上実施すること。 a）一つの活動を４０時間行う場合、b）複数種類の活動を総合して４０時間とする場合がある。２　２４か月以内に４０時間を達成すること。準備１　「ボランティア（国内）活動申込書」を担当者に提出する。本申込書において、日程、時間、各活動の目的、各活動の責任団体の情報を提示し、担当者に許可を求める。２　「ボランティア活動届」を大学に提出する。３　活動計画を立て、各活動に必要な準備を行い、事前打ち合わせ等に積極的に参加する。４　準備期間中に実践した事柄を日誌として記録すること。活動の実施　計画通りに実施し、活動内容が担当者に伝わるよう具体的に記録をとり、日誌として残すこと。活動後の担当者への提出物１　準備及び活動中の日誌２　全ボランティア活動の総合的なポートフォリオ３　各ボランティア及び活動全体のリフレクション

評価方法
評価方法 本授業は下記の事項の提出および達成することで「認定」される。１　「申込書」提出（計画立案）、準備活動、「ボランティア活動届」の大学への提出　１０％　２　日誌とポートフォリオの提出
３０％　a. ポートフォリオ：<一種のボランティアを４０時間以上実施> 英語900-1350語または日本語2400-3600字　<複数のボランティアを総合して４０時間以上実施> 計画に応じて担当者より指示する　b. リフレクション：　ボランティア活動全体を通した内容とする。英語450語または日本語1200字　c. 日誌：　準備期間及び活動中の記録　複数の活動を統合した場合もまとめて提出３　ボランティア活動の積極的な参加　６０％

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| | |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
その他（受講要件、学生へのアドバイス、連絡手段等）　希望者は国内ボランティア委員及び教務委員に連絡すること。プログラム全期間中、担当者と緊密に連絡を取り合いながら実施することが大切である。各活動に応じて計画を立案する。

| | |
|---|---|
| 01 | |
| 02 | |
| 03 | |
| 04 | |
| 05 | |
| 06 | |
| 07 | |
| 08 | |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

# 2018年度シラバス

| 科目名:英語コミュニケーションⅠ | 担当者:Lauren Landsberry | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 3 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes willinclude a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident andproficient English communicators. Students will also develop their vocabulary and learn usefulphrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics.

授業の到達目標
By the end of the course, students will have expanded their ability to talk about everyday topics and have the confidence to conduct successful ten-minute conversations in English with a helpful native speaker.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and classpreparation before each class. More time will be expected when preparing for assessmenttasks.

評価方法
Class participation: 15%Homework and class preparation: 15%Assessment #1: 20% Assessment #2: 20% Final assessment: 30%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| ext: Active Skills for Communication, Publisher: Heinle Cengage Learning, Authors: Chuck Sandy and Curtis Kelly | |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Attendance: Students are expected to attend class regularly. Students who miss 6 classes willreceive an F.

| | |
|---|---|
| 01 | Unit 1 - Class Album part 1 |
| 02 | Unit 1 - Class Album part 2 |
| 03 | Unit 2 - Favorite Photos part 1 |
| 04 | Unit 2 - Favorite Photos part 2 |
| 05 | Review and Assessment #1 |
| 06 | Unit 3 - Personal Goals part 1 |
| 07 | Unit 3 - Personal Goals part 2 |
| 08 | Unit 4 - Believe it or Not part 1 |
| 09 | Unit 4 - Believe it or Not part 2 |
| 10 | Review and Assessment #2 |
| 11 | Unit 5 - Where I Grew Up part 1 |
| 12 | Unit 5 - Where I Grew Up part 2 |
| 13 | Unit 6 - Bargain Shopper part 1 |
| 14 | Unit 6 - Bargain Shopper part 2 |
| 15 | Review of all units and progress check |
| 16 | No test |

# 2018年度シラバス

| 科目名:英語コミュニケーションⅡ | 担当者:Lauren Landsberry | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 3 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes willinclude a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident andproficient English communicators. Students will also develop their vocabulary and learn usefulphrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics.

授業の到達目標
By the end of the course, students will have expanded their ability to talk about everyday topics and have the confidence to conduct successful ten-minute conversations in English with a helpful native speaker.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and classpreparation before each class. More time will be expected when preparing for assessmenttasks.

評価方法
Class participation: 15%Homework and class preparation: 15%Assessment #1: 20% Assessment #2: 20% Final assessment: 30%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| Text: Active Skills for Communication, Publisher: Heinle Cengage Learning, Authors: Chuck Sandy and Curtis Kelly | |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Attendance: Students are expected to attend class regularly. Students who miss 6 classes willreceive an F.

| | |
|---|---|
| 01 | Unit 7 - The Perfect Gift part 1 |
| 02 | Unit 7 - The Perfect Gift part 2 |
| 03 | Unit 8 - Party Planner part 1 |
| 04 | Unit 8 - Party Planner part 2 |
| 05 | Review of units 7 and 8 and assessment#1 |
| 06 | Unit 9 - Music Profile part 1 |
| 07 | Unit 9 - Music Profile part 2 |
| 08 | Unit 10 - Style Makeover part 1 |
| 09 | Unit 10 - Style Makeover part 2 |
| 10 | Review of units 9 and 10 and assessment#2 |
| 11 | Unit 11 - Honesty part 1 |
| 12 | Unit 11 - Honesty part 2 |
| 13 | Unit 12 - Making Things Better part 1 |
| 14 | Unit 12 - Making Things Better part 2 |
| 15 | Review of all units and assessment#3 |
| 16 | No test |

2018年度シラバス

| 科目名:環境の科学 | 担当者:辻　広志 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須. 選択 | 選択必須 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>「自然を知る」の分野では、環境や食、脳、生命の科学に触れ、現代社会に不可欠な自然科学的な見識を深める。特にこの科目では、様々な生態系における環境問題と生物の保全対策について学び、ヒトと自然の共生のあり方について考える。配布プリントによる講義を中心に、視聴覚教材、現物資料の提示、実習、雑誌・新聞記事、インターネット等を通して、自然環境や野生生物に対する理解を深める。 |
| 授業の到達目標<br>地球環境、生態系のしくみ、生物多様性について理解し、環境保全活動の実践方法を知る。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修<br>環境問題・自然環境・野生生物に関する最新の情報を、新聞やテレビ、インターネット等で入手すること。 |
| 評価方法<br>レポート試験50%、平常点50%（授業感想文、出席状況、授業への取り組み姿勢）で総合評価する。 |

| 教科書<br>使用しない | 参考図書<br>授業中に適宜紹介する |
|---|---|

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>・受講者の上限を100名とし、超えた場合は抽選とします。・天候等により授業計画を変更することがあります。・質問等がある場合は、研究管理棟２Ｆの218研究室に来てください。 |

| | |
|---|---|
| 01 | イントロダクション：環境問題とと私たちの暮らし |
| 02 | 生物多様性と自然の恵み |
| 03 | 生態系のしくみと生き物どうしのつながり |
| 04 | 植物の種子散布と身近な雑草の生存戦略 |
| 05 | 野外実習：キャンパスの自然観察 |
| 06 | 外来生物が生態系に及ぼす影響 |
| 07 | 有害化学物質・環境ホルモンによる環境汚染 |
| 08 | 地球温暖化が生物に及ぼす影響 |
| 09 | 飽食の実態とフードマイレージ |
| 10 | レッドリストと絶滅危惧生物の保全 |
| 11 | 自然保護区による生態系の保全 |
| 12 | 企業・市民による環境保全活動 |
| 13 | ビオトープと自然再生事業 |
| 14 | 女子学生の自然体験と身近な生き物アンケート |
| 15 | まとめと確認 |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:食と生命の科学 | 担当者:辻岡　和代,藤田　公和,木村 達志 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限:受講者上限を１００名とし、超えた場合は抽選とします | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
この科目は、桜花学の「自然を知る」という群に配置された大学共通教養科目です。この授業では、食・脳・生命の科学に触れ、現代社会に不可欠な自然科学的な見識を深めます。3名の教員から5回ずつ食・脳・エネルギー代謝について受講するオムニバス形式の授業形態とし、講義（6回）、グループ学習・問題解決学修（3回）、実験（4回）、プレゼンテーション（2回）を行います。

授業の到達目標
・科学的根拠をもとに食の重要性を他者に伝える能力を養い学生同士で意見交換することができる。・脳の構造や機能、発達について興味を持ち、日常の身近な課題との関係を理解できる。・自分の体重について、栄養摂取量と身体活動量のバランスから成り立っている事を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・食に関する情報の科学的根拠を授業内での学習をもとに積極的に考える力を養ってください。（辻岡）・テレビなどで放送している脳科学関連の番組を視聴するようにしてください。（藤田）・メディアで発信されている健康に関する情報を取捨選択できる能力を身につけて下さい。（木村）・自宅などで1日に2回体重を測りますので、受講者は体重計（100g精度のデジタル表示が望ましい）を用意して　下さい。　（木村 ）

評価方法
平常点（授業態度・グループ学習・実験の取り組み・プレゼンテーション等）40%、レポート試験（3人の教員がそれぞれレポート課題を課します）60%の割合で評価します。

| 教科書<br>特になし | 参考図書<br>授業内で紹介します |
|---|---|

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・受講者の上限を100名とし、超えた場合は抽選とします。・質問等は、Moodleまたはオフィスアワーで受け付けます。詳細については授業で開示します。・この授業は、初回から受講することが求められており、2回目以降からの受講は避けてけて下さい（評価が難し　くなります）

| | |
|---|---|
| 01 | 食の科学に関するガイダンス　学術論文と科学的根拠　（辻岡） |
| 02 | 清涼飲料水の科学実験（辻岡） |
| 03 | 食品添加物に関する知識と着色料の抽出実験（辻岡） |
| 04 | 食品の化学変化がもたらす調理実験（辻岡） |
| 05 | 食に関するプレゼンテーション（辻岡） |
| 06 | 脳・神経の発達、記憶・学習（藤田） |
| 07 | 脳の発達と環境（藤田） |
| 08 | 脳の障害（ADHD、自閉症、虐待、切れる子ども）（藤田） |
| 09 | 運動の調節メカニズム（藤田） |
| 10 | 脳死、臓器移植（藤田） |
| 11 | 体重を正確に測定する方法（木村） |
| 12 | 基礎代謝量、生活活動強度、栄養所要量の算出（木村） |
| 13 | 身体運動により消費されるエネルギー（木村） |
| 14 | BMIの算出と日本人のデータについて（木村） |
| 15 | 行動変容と体重変化についてのプレゼンテーション（木村） |
| 16 | |

2018年度シラバス

| 科目名:スポーツⅠ | 担当者:水落　洋志 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 実技 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限:特になし | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>　本授業では、サッカーの基礎的技能習得とともにゲームを通じて、ルール・戦術について学習する。さらに、チームプレーを通して互いに協力し合うなどの社会的態度の育成と生涯スポーツの観点から体を動かす楽しさを身に付ける。 |
| 授業の到達目標<br>（1）サッカーの基礎的技能習得と基礎的知識を理解する。（2）対人プレーやゲームを通じて協力し、体を動かす楽しさを身に付ける。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修<br>準備学修：サッカーのルール及び基礎的技能について調べておくこと。事後学修：サッカーの基礎的技能習得のため復習しておくこと。 |
| 評価方法<br>基礎技能習得テスト（75%）、ミニッツペーパー（25%）で評価する。 |

| 教科書<br>特になし | 参考図書<br>必要に応じて資料を配布する。 |
|---|---|

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>運動のできる服装、外用運動靴を必ず準備してください。連絡をとりたい場合は、教務課へ申し出ること。 |

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション、授業の進め方、サッカーの基礎知識 |
| 02 | 基礎的技能習得1：ボールコントロール・キック |
| 03 | 基礎的技能習得2：リフティング・パス |
| 04 | 基礎的技能習得3：ドリブル・ドリブル（パス・シュート）・ミニゲーム |
| 05 | 基礎的技能習得4：シュート・ミニゲーム／ミニッツペーパー |
| 06 | 対人戦術1：2対1・2対2・ミニゲーム |
| 07 | 対人戦術2：3対2・3対3・ミニゲーム |
| 08 | 対人戦術3：4対3・4対4・ミニゲーム／ミニッツペーパー |
| 09 | 中間技能習得テスト・ミニゲーム／ミニッツペーパー |
| 10 | ミニゲーム：4対4（GK有） |
| 11 | ミニゲーム：5対5（GK有） |
| 12 | ミニゲーム：6対6（GK有）／ミニッツペーパー |
| 13 | 攻撃の戦術と守備の戦術1：ミニゲーム |
| 14 | 攻撃の戦術と守備の戦術2：ミニゲーム |
| 15 | まとめ |
| 16 | 定期試験（基礎技能習得テストおよびミニゲーム） |

2018年度シラバス

| 科目名:スポーツⅠ | 担当者:横井　康博 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 実技 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

| 授業概要と方法 | |
|---|---|
| 授業の到達目標 | |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 | |
| 評価方法 | |
| 教科書 | 参考図書 |
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段) | |

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション　今後の授業の進め方 |
| 02 | ゴルフの基礎知識 |
| 03 | ゴルフスイングの基本Ⅰ　グリップの種類と握り方 |
| 04 | ゴルフスイングの基本Ⅱ　アドレス姿勢の重要性 |
| 05 | ゴルフスイングの基本Ⅲ　スイング軌道について①　バックスイング　切り返し　ダウンスイング |
| 06 | ゴルフスイングの基本Ⅳ　スイング軌道について②　インパクト　フォロースルー |
| 07 | ゴルフスイングの基本Ⅴ　スイングリズムと体重移動 |
| 08 | ショットの基本Ⅰ　ボールを置く位置の違い |
| 09 | ショットの基本Ⅱ　打球の強弱を意識して |
| 10 | ショットの基本Ⅲ　方向性を意識して |
| 11 | ショットの基本Ⅳ　自身のコントロールによる打ち分け |
| 12 | ショートゲーム① |
| 13 | ショートゲーム②　ターゲットバードゴルフ |
| 14 | ショートゲーム③　パットゴルフ |
| 15 | まとめ　目標達成度チェック |
| 16 | なし |

| 科目名:スポーツⅡ | 担当者:榎本　宣子,小磯　浩世 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 実技 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
バドミントンの魅力のひとつは、だれでも手軽に楽しむことができる点にある。ゲームを体験すると、運動量の多さや、技術の奥行きの深さ、戦術の複雑さに驚かされる。ゲームを経験し、ダブルスのフォーメションの理論と戦術、シングルスのレベル別の試合を通して、バドミントンの楽しさを体験する。バドミントンの理論と実践、またそれらを通して運動感覚を習得し、生涯にわたって年齢と体力に応じた豊かなスポーツライフを送るための基盤づくりをする。

授業の到達目標
・準備運動、整理運動の重要性を理解し、傷害の予防に留意してスポーツに親しむことができる。・スポーツの場の空間配置を整え、安全に留意したスポーツ行動の習慣化。　・市民スポーツの愛好者団体に参加し、リーダーシップを発揮することができる。・選択履修したスポーツ種目の特性を理解し、基本的技術、ルール、マナー、審判法を修得し、市民スポーツ競技会等に参加することができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
配布資料からスポーツのルールや技術、戦術、歴史の予習復習をする。

評価方法
授業への積極的な参加度と、授業の練習記録とレポート及び、技術的な進歩度によって総合的に評価する。授業への取り組み50%、種目特性の理解及び技術の習得度50%。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| | |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
それぞれのスタート地点は違います。毎回の授業で全体の目標以外に、自らの目標を設定し、あきらめずに努力を重ねましょう。小さな進歩の積み重ねが、スポーツの楽しさへとつながります。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション．授業の進め方の説明など。 |
| 02 | ストレッチの理論と実践　そのⅠ基本　ラケットの使い方Ⅰ |
| 03 | ストレッチの理論と実践　そのⅡ　目的別のストレッチ　ラケットの使い方Ⅱ　シャトルの特性 |
| 04 | ストレッチの理論と実践　そのⅢ　目的別のストレッチ　ラケットの使い方Ⅲ　ラリーを楽しむ |
| 05 | ストレッチの理論と実践　そのⅣ　応用　ショットⅠ(ハイクリア・ドライブ)ダブルス簡易ゲーム |
| 06 | ストレッチの理論と実践　そのⅤ　応用　ショットⅡ(ヘアピン）ダブルスゲームのルールと審判 |
| 07 | ショットⅢ（プッシュ）ダブルスゲーム。 |
| 08 | ショットⅣ（ロブ）バドミントンの歴史、ダブルスゲーム。ダブルスのフォーメーション |
| 09 | ショットⅤ（スマッシュ）ダブルスゲーム。ダブルスのフォーメーションの応用 |
| 10 | ロングサービスとショートサービス。ダブルスゲーム。 |
| 11 | 修得した技術の見直し。フットワーク(前後　左右への動き）　シングルスゲームのルールと審判。 |
| 12 | 運動感覚の習得Ⅰ　　シングルスゲーム（技術レベルに応じたシングルスゲーム） |
| 13 | 運動感覚の習得Ⅱ　各ショットの完成のための個別練習。シングルスゲーム |
| 14 | 運動感覚の習得Ⅲ　各ショットの完成。強いスマッシュのための個別練習。シングルスゲーム |
| 15 | まとめとして習得した技術の発表。 |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:スポーツⅡ | 担当者:伊藤　僚 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 実技 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
・テニスの基本的なルール・マナーそして競技特性を学ぶ。・集団の中での協調性を身につけ積極的に講義へ参加し、健康を維持し体力高めること。・テニスを通じて生涯スポーツを楽しめるようになること。

授業の到達目標
・テニスの基本的なルール・マナーの習得、基本的なスキル（ラリー等）の獲得。・集団の中での協調性を身につけ、自分の課題をみつけ積極的に取り組む姿勢を獲得できる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・体調管理：十分に運動できるように体調を整えて参加すること（睡眠を十分とる・疲労回復・朝食をとる）・講義後に疲労回復を図ること

評価方法
①授業への参加態度：20%　②スポーツへのマナー・ルールの理解、個人技能の向上度：40%②受講姿勢：メンバーとの協力・準備・片付け・積極的に練習やゲームに参加しているか等）40%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| なし | 石井弘樹「DVDテニスパーフェクトマスター」（新星出版社）、他講義中に紹介します |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・テニスの使うラケットは大学で用意できています。ただし自分の使い慣れたラケットがある場合は使用可.・毎授業時必ずタオル・水分補給を準備すること.・各種目にふさわしい服装・シューズで授業に望むこと．また，遅刻をしないこと.
その他，水分補給等については担当者の指示に従うこと.

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション・基本技術の習得1（ラケットの操作の基本グリップの握り方） |
| 02 | レベルチェック・基本技術の習得1（ヒッティングポイントを覚えるためのテイクバックの小さいショートラリー） |
| 03 | 基本技術の習得2（グランドストローク）・ミドルラリー |
| 04 | 基本技術の習得3　ネットプレー1　（ボレー：フォア・バック） |
| 05 | サービス１(サーブの打ち方・サーブレシーブ)・スキルチェックテスト |
| 06 | ダブルスゲーム（ルールとゲームの進め方）・フォーメーション（雁行陣） |
| 07 | ダブルスゲーム（班別リーグ戦） |
| 08 | ダブルスゲーム（班別リーグ戦） |
| 09 | ダブルスゲーム（班別リーグ戦） |
| 10 | ダブルスゲーム（班別リーグ戦） |
| 11 | ダブルスゲーム（班別リーグ戦）・スキルチェックテスト |
| 12 | レベル別に別れてのWゲーム |
| 13 | レベル別に別れてのWゲーム |
| 14 | シングルスゲーム |
| 15 | シングルスゲーム |
| 16 | シングルスゲーム（まとめ） |

2018年度シラバス

| 科目名:統計学 | 担当者:上原　隆司 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限:パソコン使用 | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
この講義ではデータを解析する際に用いる統計的手法の基礎となる理論の講義の後に、MS Excel を用いた実際のデータ解析の演習を行う。毎回の授業で充電されたノートパソコンを持参すること。

授業の到達目標
データを解析するときにはソフトが計算してくれた結果をそのまま記述するだけではなく、そこでどのような統計的手法が用いられ、なぜその方法が有効かを理解しておく必要がある。この授業では統計学の基礎的な用語や手法を理解し、目の前のデータに用いるべき統計的手法を自分で選択できるようになることを目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
普段の生活やニュースなどでデータとそれに対する分析を目にしたときに、どのような形のデータをどのように処理したのか、その方法は適切か、どのようなデータを取れば良いかなどを意識して考え、統計的な考え方に慣れる。

評価方法
レポート(70%)、授業への参加態度(30%)

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 「まずはこの一冊から 意味がわかる統計学」 石井俊全 ペレ出版 | 必要に応じて紹介する |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業で示されるサンプルデータを使うよりも、自分で解析したいデータを用いることが統計学への関心と理解を深めるので、興味のあるデータを持っていれば、自分でトライしてみる事が重要である。質問等があれば研究管理棟 3 階の教員研究室(3-7)へ。

| | |
|---|---|
| 01 | データと統計解析 |
| 02 | 相対度数分布表とヒストグラム |
| 03 | 平均、分散、標準偏差 |
| 04 | 平均と分散の感覚的理解 |
| 05 | 変動係数、抽出された標本の特徴 |
| 06 | 正規分布―いまなら分かる「偏差値」 |
| 07 | 二項分布―じゃんけん大会で勝ち残る確率 |
| 08 | 統計的推定の考え方―一部のデータから全体を予測する |
| 09 | 統計的検定の考え方―じゃんけん大会で勝ち残ったのは偶然か? |
| 10 | t検定ー平均値の差の検定 |
| 11 | 分散分析ー3群間の平均値の差の検定 |
| 12 | χ2検定(カイ2乗検定)ー男女間で結果に違いはあるか? |
| 13 | 2変量の統計1ー散布図と相関係数 |
| 14 | 2変量の統計2ー無相関検定と回帰直線 |
| 15 | 統計的手法の選び方と全体のまとめ |
| 16 | なし |

# 2018年度シラバス

| 科目名:社会調査法 | 担当者:南　裕一郎 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
本講義では、社会調査の技法について学びます。明確な問題意識に基づいて仮説を立て、調査法の選定、調査の設計、実査、データの分析と命題の提示にいたるまでのプロセスを科学的・客観的に処理する方法について詳述します。社会調査は私たちの「社会」のすがたを明らかにする手段ですが、調査過程での他者とのコミュニケーションを通じて、自分とは何か、自分と社会はどうつながっているのかについて考えるきっかけにもなります。

授業の到達目標
社会調査の理論・方法論・技法を修得し、卒業論文などでアンケート調査・インタビュー調査などを実施できるようにする（＝リサーチ・リテラシー）とともに、論文やレポート、報告書等の作成に必要な論理的な文章の書きかた・構成のしかたについても身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
新聞やテレビ、インターネット上にあるさまざまな「調査」についてつねに目配りし、私たちの社会がどうなっているのか、どう動いているのかについて考える習慣をつけてください。また、配布された印刷教材をかならず事前・事後に読んでおいてください。なお、授業内でパソコン（Excel）を使用する回があります。日ごろから積極的にExcelを使うように心がけてください。

評価方法
①期末レポート：70%（各自で調査を実施し、調査報告書を期末レポートとして提出する）、②授業への参加態度：15%、③授業中に数回おこなう小レポート：15%、の評価を合算し、総合的に評価します。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| オリジナルの教科書を配布します | 授業内で指示します |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
卒業研究でアンケート調査やインタビュー調査などの「社会調査」を実施しようと考えている人はぜひとも受講してください。なお、期末レポートは毎回の授業への出席がなければ到底作成できないので、意欲ある人の積極的な参加を要件とします。

| | |
|---|---|
| 01 | 社会調査の目的 |
| 02 | 社会調査の意義・歴史・課題 |
| 03 | 社会調査の手順①：問題意識の形成 |
| 04 | 社会調査の手順②：仮説の構築と調査方法の決定 |
| 05 | 社会調査の手順③：収集データの分析 |
| 06 | 社会調査の手順④：分析結果の解釈と調査結果の作成 |
| 07 | 因果関係と相関関係 |
| 08 | 統計データをもとにさまざまな分析をおこなう（e-Statを使用） |
| 09 | 量的データ収集の方法――サンプリング（単純無作為抽出、層化抽出、多段抽出など） |
| 10 | 質問紙調査票を作成する（ワーディングの重要性） |
| 11 | データ入力とさまざまな統計分析をおこなう（Excelでのクロス集計表・グラフの作成） |
| 12 | 観察調査の実践（フィールドワーク、参与観察、行動観察など） |
| 13 | インタビュー調査の技法（アポイントメントの取り方、質問の仕方、インタビューの練習） |
| 14 | レポート・論文の書き方 |
| 15 | リサーチ・リテラシーを身につけるためには |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:情報社会論 | 担当者:木村　登次 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須. 選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
メディアの発達により我々は多くの情報を手に入れることができますが、多くの情報を得てもそれらすべてが有益なものであるとはいえません。しかも「知る」ということが優先され、ものごとを深く考えない傾向にあります。そこで本講座では、情報を「知る」こと、「考える」こと、そして「判断する」こと、そしてその情報を問題解決（対応）にいかに役立てていくかについて検討していきます。

授業の到達目標
情報を処理する力や情報を通じ自分以外の人とコミュニケーションする力（自分を表現する力・相手を理解する力）などを身につけること、情報を処理することによる問題解決（対応）学習の準備をすることが本講座の到達目標です。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
パソコンをはじめとするスマートフォン、タブレット等の通信ツールを使いこなしてください。

評価方法
ミニレポートの提出、課題提出により評価をします。ミニレポート・課題３０％、課題提出７０％です。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 適宜プリントを配布します。 | 特にありません。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日常生活の中で伝達される情報に関心をもち、その意味を自分なりに考えてみてください。

| | |
|---|---|
| 01 | 講義概要 |
| 02 | 情報ってなに？ |
| 03 | 情報を処理することと問題解決（対応） |
| 04 | 知ることと考えること |
| 05 | あなたならどうしますか？（その１） |
| 06 | 地図を読む |
| 07 | あなたのコンピュータ、病気にかかっていませんか？ |
| 08 | 話す言葉と書く言葉 |
| 09 | サインとシンボル |
| 10 | 映像で考える・言葉で考える |
| 11 | あなたならどうしますか？（その２） |
| 12 | アナログとデジタル |
| 13 | 都市伝説と昔話 |
| 14 | あなたならどうしますか？（その３） |
| 15 | 講義全体のまとめ |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:ボランティア（海外） | 担当者:成田　弘成 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 実習 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期・後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:特になし | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
国際的なNGO、企業、国際機関、観光機関等でボランティア活動に参加することにより、学生たちが成長し、国際的な経験し、コミュニティ精神を養うことを目的とする。子ども達、障害を持つ人、貧しい人、病める人、環境やコミュニティ全体を助ける等が実践例として考えられる。その他の活動も可能であり、担当者とともに話し合って決定する。1年次の後期から4年次まで実習可能であるが、4年次の1月までにボランティア活動は完了している必要がある。

授業の到達目標
本実習授業では、学生が、他者やコミュニティを助ける貴重な海外経験を自力で持てる能力を高められ、こうした活動を通して、卒業後も人生を通して様々な分野で活かすボランティア精神を養うことが出来る。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
活動実施条件1.海外でのボランティア活動を10日間(80時間)以上実施すること。a)一つの活動を80時間行う場合、b)複数種類の活動を総合して80時間とする場合がある。2.24か月以内に80時間を達成すること。準備1.事前に海外機関から得た許可証とともに「ボランティア(海外)活動申込書」を担当者に提出する。本申込書において、日程、時間、各活動の目的、各活動の責任団体の情報を提示し、担当者に許可を求める。2.「ボランティア活動届」を大学に提出する。3.活動計画を立て、各活動に必要な準備を行い、事前打ち合わせ等に積極的に参加する。4.準備期間中に実践した事柄を日誌として記録すること。活動の実施　1.計画通りに実施し、活動内容が担当者に伝わるよう具体的に記録をとり、日誌として残すこと。

活動後の担当者への提出物1.準備及び活動中の日誌　2.全ボランティア活動の総合的なポートフォリオ3.各ボランティア及び活動全体のリフレクション

評価方法
1.海外機関「許可証」、「申込書」提出(計画立案)、準備活動、「ボランティア活動届」の大学への提出2.日誌とポートフォリオの提出a. ポートフォリオ:一種のボランティアを80時間以上実施　英語1000-1500語または日本語4000-5000字
□　　複数のボランティアを80時間以上実施　計画に応じて担当者より指示するb.リフレクション: ボランティア活動全体を通した内容とする。英語450語または日本語1200字c.日誌:準備期間及び活動中の記録　複数の活動を統合した場合もまとめて提出3. ボランティア活動の積極的な参加

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| なし | なし |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
希望者はボランティア(海外)担当者及び教務委員に連絡すること。プログラム全期間中、担当者と緊密に連絡を取り合いながら実施することが大切である。各活動に応じて計画を立案する。

| | |
|---|---|
| 01 | |
| 02 | |
| 03 | |
| 04 | |
| 05 | |
| 06 | |
| 07 | |
| 08 | |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

2018年度シラバス

| 科目名:総合英語Ⅲ | 担当者:内田　政一 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限:必ずPlacement Testを受けること | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
　保育の現場で使用する英語をテキストの演習問題を通して学んでいきます。随時、映像教材、英語の歌、絵本なども取り入れ、英語による表現力の向上とともに、異文化理解に役立てていきます。また、フレーズ集を使用し、ペアワークやグループワークを通して、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
　この授業を通して、保育現場で使用できる英語表現を身につける。また、Reading、Listening、文法の力の強化を図り、総合的に英語力を上げることを目指していく。また、日常のコミュニケーション場面での会話表現を理解し、実践できるようになることを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　必ずテキストを予習して授業に参加し、新たに学んだ表現や語彙はしっかりと復習すること。また、フレーズ集（Active Comunication with Phrases）からの確認テストを行う際には準備して受験すること。テキストには付属のSelf-Study用CDが用意されているため、通学などの時間を利用して繰り返し聞くようにすること。

評価方法
授業への参加度　30%　小テスト　30%　定期テスト40%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 赤松直子 Children’s Garden（成美堂）　内田政一他<br>Active Communication with Phrases（南雲堂） | 授業内で紹介します。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書・辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませ、予習を欠かさないこと。（オフィスアワー：木曜昼休み）

| | |
|---|---|
| 01 | Introduction & Placement Test |
| 02 | Chapter 1：Listening & Grammar |
| 03 | Chapter 1：Conversation & Reading　/　Phrase Learning 1 |
| 04 | Chapter 2：Listening & Grammar　/　Phrase Learning 2 |
| 05 | Chapter 2：Conversation & Reading　/　Phrase Learning 3 |
| 06 | Chapter 3：Listening & Grammar & Conversation & Reading |
| 07 | Review Test　(Chapter 1~3) |
| 08 | Chapter 4：Listening & Grammar　/　Phrase Learning 4 |
| 09 | Chapter 4：Conversation & Reading　/　Phrase Learning 5 |
| 10 | Chapter 5：Listening & Grammar　/　Phrase Learning 6 |
| 11 | Chapter 5：Conversation & Reading　/　Phrase Learning 7 |
| 12 | Chapter 6：Listening & Grammar　/　Phrase Learning 8 |
| 13 | Chapter 6：Conversation & Reading　/　Phrase Learning 9 |
| 14 | Chapter 7：Listening & Grammar　/　Phrase Learning 10 |
| 15 | Chapter 7：Conversation & Reading　/　Phrase Leaning Review |
| 16 | Final Exam |

2018年度シラバス

| 科目名:総合英語Ⅲ | 担当者:佐藤　裕子 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
授業への積極的な参加、他者と交流・協力し、学び合う力、課題を発見、理解、解決し得る力をつけるために、2冊のテキストを使って学ぶ。『フレーズからはじめる英語ドリル』にあるフレーズは、自習・暗記し、小テストで習熟度を確認して、重要なフレーズの定着を図る。Children's Garden では、実習生の保育園での経験をもとに、随時子供たち向けの英語の歌、絵本も取り入れ、授業への積極的な参加を促す。グループで協力をしてPresentationに備える。

授業の到達目標
身近な題材のフレーズなど、英会話をするのにすぐに役に立つ重要表現について学び、理解する。実習生の保育園での経験を記した英文を読み、それに関連した問題を通して内容を理解する。英語のみでなく、保育者になるための心構えも学ぶことができる。英語の歌を歌ったり、英語の絵本を読むこと、Presentationに参加することで、授業への積極的な参加、グループワークができるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
『フレーズからはじめる英語ドリル』の小テストに備えて、会話のフレーズと用いる単語のつづりを覚える。Children's Gardenの方は、毎回必ず予習・復習をして、2回のテストに備える。Presentationは、グループのメンバーで何をするかを考えてしっかりと準備をして臨み、報告レポートの準備をする。各授業に対して、4時間程度の授業外学修が求められる。

評価方法
授業参加度20%、小テスト・レポートなど30%、Review Test+定期試験50%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 赤松直子著　Children's Garden　成美堂　内田政一他著　『フレーズからはじめる英語ドリル』南雲堂 | 授業中に指示する |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には必ず英和辞書を持参し、分からない単語はその都度調べること。英語を学ぶことは、あらゆる可能性をもたらしてくれる。連絡先は授業で開示する。

| | |
|---|---|
| 01 | イントロダクション・プレイスメントテスト |
| 02 | Chapter1・来月実習が始まりますⅠ |
| 03 | Chapter1・来月実習が始まりますⅡ　Phrase learning |
| 04 | Chapter2・実習初日Ⅰ　Phrase learning |
| 05 | Chapter2・実習初日Ⅱ　Phrase learninng |
| 06 | Chapter3・さあ、出かけましょう！Ⅰ　Phrase learning |
| 07 | Chapter3・さあ、出かけましょう！Ⅱ　Phrase learninng |
| 08 | Chapter1-３　Review Test　Presentation説明・グループ分け |
| 09 | Chapter4・バシャバシャ、水しぶきⅠ　Phrase learning |
| 10 | Chapter４・バシャバシャ、水しぶきⅡ　Phrase learning<br>Chapter4・バシャバシャ、水しぶきⅡ　Phrase learning |
| 11 | Chapter5・ホットケーキの日Ⅰ　Phrase learning |
| 12 | Chapter5・ホットケーキの日Ⅱ　Phrase learning |
| 13 | Presentation |
| 14 | Chapter6・本を読んで、お話を聞かせてⅠ　Phrase learning |
| 15 | Chapter6・本を読んで、お話を聞かせてⅡ・まとめ |
| 16 | 定期試験 |

2018年度シラバス

| 科目名:総合英語Ⅲ | 担当者:高橋　妙子 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
“Children’s Garden” で保育の場面で使用する英語を学び、“Active Communication with Phrases” では状況に応じた会話の流れを学習し、日常生活にも役立つ表現を覚えます。テキスト以外にも季節に合わせたActivity にチャレンジしたり、DVDや英語の歌などを通して、英会話と文化的な知識を身につけます。

授業の到達目標
保育現場で使用できる英語表現と、日常会話で役立つ表現を学び、総合的に英語力を上げることを目標とします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業で学んだ表現や語彙は必ず覚え、課題や復習はしっかりと行うこと。 フレーズ集からの確認テストを行う際には準備をして受けること。２冊のテキストにはSelf-Study 用のCDがついているので、通学などの時間を利用して繰り返し聞いて下さい。

評価方法
Activity (Pair & Group Work) ２０％、 Quiz ３０％、 Review Test５０％

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| “Children’s Garden”(成美堂) 赤松直子著 “Active Communication with Phrases” (南雲堂) 内田政一他著 | |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には辞書必携 (電子辞書、辞書アプリOK) 。将来保育現場や日常会話で使うことを想定して、復習のための時間は十分に確保すること。

| | |
|---|---|
| 01 | Placement Test & Introduction |
| 02 | Chapter 1: Children’s Garden　Phrase Learning 1 |
| 03 | Chapter 1: Children’s Garden　Phrase Learning 2 |
| 04 | Chapter 2: The First Day of the Internship |
| 05 | Chapter 2: The First Day of the Internship　Phrase Learning 3 |
| 06 | Chapter 3: Out We Go!　Phrase Learning 4 |
| 07 | Chapter 3: Out We Go!　Phrase Learning 5 |
| 08 | Review Text (Chapter 1-3) |
| 09 | Chapter 4: Splish, Splash　Phrase Learning 6 |
| 10 | Chapter 4: Splish, Splash　Phrase Learning 7 |
| 11 | Chapter 5: Pancake Day |
| 12 | Chapter 5: Pancake Day　Phrase Learning 8 |
| 13 | Chapter 6: Read Me, Tell Me Stories　Phrase Learning 9 |
| 14 | Chapter 6: Read Me, Tell Me Stories |
| 15 | Review & Extra Activity |
| 16 | Final Examination (Chapter 4-6) |

2018年度シラバス

| 科目名:総合英語Ⅲ | 担当者:小野　克志 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限:必ずPlacement Testを受けること | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
　保育の現場で使用する英語をテキストの演習問題を通して学んでいきます。随時、映像教材、英語の歌、絵本なども取り入れ、英語による表現力の向上とともに、異文化理解に役立てていきます。また、フレーズ集を使用し、ペアワークやグループワークを通して、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
　この授業を通して、保育現場で使用できる英語表現を身につける。また、Reading、Listening、文法の力の強化を図り、総合的に英語力を上げることを目指していく。また、日常のコミュニケーション場面での会話表現を理解し、実践できるようになることを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　必ずテキストを予習して授業に参加し、新たに学んだ表現や語彙はしっかりと復習すること。また、フレーズ集（Active Communication with Phrases）からの確認テストを行う際には準備して受験すること。テキストには付属のSelf-Study用CDが用意されているため、通学などの時間を利用して繰り返し聞くようにすること。

評価方法
授業への参加度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 赤松直子 Children’s Garden（成美堂）　内田政一他<br>Active Communication with Phrases（南雲堂） | 授業内で紹介します。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書・辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度・配布物・宿題）は、各自で済ませ、予習を欠かさないこと。授業担当者への連絡方法は、担当者から授業内で知らせる。

| | |
|---|---|
| 01 | Introduction & Placement Test |
| 02 | Chapter 1 : Listening & Grammar |
| 03 | Chapter 1 : Conversation & Reading / Phrase Learning 1 |
| 04 | Chapter 2 : Listening & Grammar / Phrase Learning 2 |
| 05 | Chapter 2 : Conversation & Reading / Phrase Learning 3 |
| 06 | Chapter 3 : Listening & Grammar & Conversation & Reading |
| 07 | Review Test (Chapter 1~3) |
| 08 | Chapter 4 : Listening & Grammar / Phrase Learning 4 |
| 09 | Chapter 4 : Conversation & Reading / Phrase Learning 5 |
| 10 | Chapter 5 : Listening & Grammar / Phrase Learning 6 |
| 11 | Chapter 5 : Conversation & Reading / Phrase Learning 7 |
| 12 | Chapter 6 : Listening & Grammar / Phrase Learning 8 |
| 13 | Chapter 6 : Conversation & Reading / Phrase Learning 9 |
| 14 | Chapter 7 : Listening & Grammar / Phrase Learning 10 |
| 15 | Chapter 7 : Conversation & Reading / Phrase Leaning Review |
| 16 | Final Exam |

2018年度シラバス

| 科目名:総合英語Ⅳ | 担当者:内田　政一 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
　保育の現場で使用する英語をテキストの演習問題を通して学んでいきます。随時、映像教材、英語の歌、絵本なども取り入れ、英語による表現力の向上とともに、異文化理解に役立てていきます。また、フレーズ集を使用し、ペアワークやグループワークを通して、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
　この授業を通して、保育現場で使用できる英語表現を身につける。また、Reading、Listening、文法の力の強化を図り、総合的に英語力を上げることを目指していく。また、日常のコミュニケーション場面での会話表現を理解し、実践できるようになることを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　必ずテキストを予習して授業に参加し、新たに学んだ表現や語彙はしっかりと復習すること。また、フレーズ集（Active Communication with Phrases）からの確認テストを行う際には準備して受験すること。テキストには付属のSelf-Study用CDが用意されているため、通学などの時間を利用して繰り返し聞くようにすること。

評価方法
授業への参加度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 赤松直子 Children’s Garden（成美堂）　内田政一他<br>Active Communication with Phrases（南雲堂） | 授業内で紹介します。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書・辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませ、予習を欠かさないこと。（オフィスアワー：木曜昼休み）

| | |
|---|---|
| 01 | Introduction |
| 02 | Chapter 8：Listening & Grammar |
| 03 | Chapter 8：Conversation & Reading　/　Phrase Learning 11 |
| 04 | Chapter 9：Listening & Grammar　/　Phrase Learning 12 |
| 05 | Chapter 9：Conversation & Reading　/　Phrase Learning 13 |
| 06 | Chapter 10：Listening & Grammar　/　Phrase Learning 14 |
| 07 | Chapter 10：Conversation & Reading　/　Phrase Learning 15 |
| 08 | Review（Chapter 8~10） |
| 09 | 英語の歌・絵本① |
| 10 | Chapter 11：Listening & Grammar　/　Phrase Learning 16 |
| 11 | Chapter 11：Conversation & Reading　/　Phrase Learning 17 |
| 12 | 英語の歌・絵本② |
| 13 | Chapter 12：Listening & Grammar　/　Phrase Learning 18 |
| 14 | Chapter 12：Listening & Grammar　/　Phrase Learning 19 |
| 15 | Review（Chapter 11~12）　/　Phrase Learning 20 |
| 16 | Final Exam |

2018年度シラバス

| 科目名:総合英語Ⅳ | 担当者:佐藤　裕子 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
前期に続いて授業への積極的な参加、他者との交流・協力をし、学び合う力、課題を発見、理解、解決し得る力をつける。具体的には『フレーズからはじめる英語ドリル』にあるフレーズは、自習・暗記をして定着を図る。Children's Garden でも、実習生の保育園での経験をもとに、さらに学んでいく。子供たち向けの英語の歌を歌うこと、英語の絵本の翻訳などを通じて、授業への積極的参加をし、クラスメートとの協力をしていく。、将来役に立つ英語の向上を目指す。

授業の到達目標
授業への積極的な参加を目標にする。身近な題材のフレーズをなど、すぐに役に立つ重要表現について学び、理解する。実習生の保育園での経験を記した英文を精読して、それに関する練習問題を解きながら、英語での自己表現の仕方、園の先生たちの子供たちへの接し方を重ねて身につける。歌、翻訳などでは、グループワークを行い、クラスメートと協力をして出来るようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
後期は実習の都合により、授業計画が変更になることもあるが、しっかりと予習・復習をして定期テストに備えてほしい。絵本の翻訳・DVDの鑑賞のレポートも、クラスメートで助け合って、授業外でも丁寧に取り組んでほしい。『フレーズからはじめる英語ドリル』の小テストに備えて、会話のフレーズと単語のつづりを覚えること。各授業に対して、4時間程度の授業外学修が求められる。

評価方法
授業参加度20%、小テスト・レポートなど30%、定期テスト50%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 赤松直子著　Children's Garden　成美堂　　内田政一他著『フレーズからはじめる英語ドリル』南雲堂 | 授業で指示をする |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には必ず英和辞書を持参して、分からない単語はその場で調べる。質問は随時受け付ける。連絡先は、授業で開示する。

| | |
|---|---|
| 01 | イントロダクション・Chapter7・すいかで遊ぼうⅠ |
| 02 | Chapter7・すいかで遊ぼうⅡ　　Phrase Learning |
| 03 | Chapter8・お誕生日おめでとうⅠ　　Phrase Learning |
| 04 | Chapter8・お誕生日おめでとうⅡ　　Phrase Learning<br>Chapter8・お誕生日おめでとうⅡ　　Phrase Learning 15<br><br><br>Chapter8・お誕生日おめでとうⅡ　　Phrase Learning 15 |
| 05 | Chapter9・子どもと遊びⅠ　　DVD鑑賞（不思議の国のアリス）<br>Chapter9・子どもと遊びⅠ　　DVD鑑賞(<br>husigin<br>Chapter9<br>Chapter９・子どもと遊びⅠ　　DVD鑑賞（不思議の国のアリス） |
| 06 | Chapter9・こどもと遊びⅡ　　英語の絵本の翻訳（不思議の国のアリス・グループワーク）<br>Chapter９・子どもと遊びⅡ　　英語の絵本の翻訳（不思議の国のアリス・グループワーク）<br>Chapter9・子どもと遊びⅡ　　英語の絵本の翻訳（不思議の国のアリス・グループワーク） |
| 07 | Chapter９・子どもと遊びⅢ　　DVD鑑賞（不思議の国のアリス） |
| 08 | Chapter10・赤ちゃんニュース　　英語の絵本の翻訳（不思議の国のアリス・グループワーク） |
| 09 | Chapter10・赤ちゃんニュース　　英語の絵本の翻訳（不思議の国のアリス・グループワーク） |
| 10 | Chapter10・赤ちゃんニュース　　英語の歌（クリスマスソング） |
| 11 | Chapter11・歯の妖精Ⅰ　　Phrase Learning |
| 12 | Chapter11・歯の妖精Ⅱ　　Phrase Learning |
| 13 | Chapter12・緑の目の魔女Ⅰ<br>Chapter12・緑の目の魔女Ⅰ　　Phrase Learning 17 |
| 14 | Chapter12・緑の目の魔女Ⅱ |
| 15 | 全体のまとめ |
| 16 | 定期試験 |

2018年度シラバス

| 科目名:総合英語Ⅳ | 担当者:高橋　妙子 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
“Children’s Garden” で保育の場面で使用する英語を学び、“Active Communication with Phrases” では状況に応じた会話の流れを学習し、日常生活にも役立つ表現を覚えます。テキスト以外にも季節に合わせたActivity にチャレンジしたり、DVDや英語の歌などを通して、英会話と文化的な知識を身につけます。

授業の到達目標
保育現場で使用できる英語表現と、日常会話で役立つ表現を学び、総合的に英語力を上げることを目標とします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業で学んだ表現や語彙は必ず覚え、課題や復習はしっかりと行うこと。 フレーズ集からの確認テストを行う際には準備をして受けること。２冊のテキストにはSelf-Study 用のCDがついているので、通学などの時間を利用して繰り返し聞いて下さい。

評価方法
Activity (Pair & Group Work) ２０％、 Quiz ３０％、 Review Test５０％

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| “Children’s Garden”(成美堂) 赤松直子著 “Active Communication with Phrases” (南雲堂) 内田政一他著 | |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には辞書必携 (電子辞書、辞書アプリOK) 。将来保育現場や日常会話で使うことを想定して、復習のための時間は十分に確保すること。

| | |
|---|---|
| 01 | Activity after Summer Vacation |
| 02 | Chapter 7: Activities with Watermelons Phrase Learning 11 |
| 03 | Chapter 7: Activities with Watermelons Phrase Learning 12 |
| 04 | Chapter 8: Happy Birthday! |
| 05 | Chapter 8: Happy Birthday! Phrase Learning 13 |
| 06 | Chapter 9: Children at Play Phrase Learning 14 |
| 07 | Chapter 9: Children at Play |
| 08 | Extra Activity |
| 09 | Chapter 10: Baby News Phrase Learning 15 |
| 10 | Chapter 10: Baby News Phrase Learning 16 |
| 11 | Chapter 11: The Tooth Fairy |
| 12 | Chapter 11: The Tooth Fairy Phrase Learning 17 |
| 13 | Chapter 12: The Green-Eyed Witch Phrase Learning 18 |
| 14 | Chapter 12: The Green-Eyed Witch |
| 15 | Review Chapter 7-12 |
| 16 | Final Examination |

2018年度シラバス

| 科目名:総合英語Ⅳ | 担当者:小野　克志 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
　保育の現場で使用する英語をテキストの演習問題を通して学んでいきます。随時、映像教材、英語の歌、絵本なども取り入れ、英語による表現力の向上とともに、異文化理解に役立てていきます。また、フレーズ集を使用し、ペアワークやグループワークを通して、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
　この授業を通して、保育現場で使用できる英語表現を身につける。また、Reading、Listening、文法の力の強化を図り、総合的に英語力を上げることを目指していく。また、日常のコミュニケーション場面での会話表現を理解し、実践できるようになることを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　必ずテキストを予習して授業に参加し、新たに学んだ表現や語彙はしっかりと復習すること。また、フレーズ集（Active Communication with Phrases）からの確認テストを行う際には準備して受験すること。テキストには付属のSelf-Study用CDが用意されているため、通学などの時間を利用して繰り返し聞くようにすること。

評価方法
授業への参加度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 赤松直子 Children’s Garden（成美堂）　内田政一他<br>Active Communication with Phrases（南雲堂） | 授業内で紹介します。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書・辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度・配布物・宿題）は、各自で済ませ、予習を欠かさないこと。授業担当者への連絡方法は、担当者から授業内で知らせる。

| | |
|---|---|
| 01 | Introduction |
| 02 | Chapter 8：Listening & Grammar |
| 03 | Chapter 8：Conversation & Reading　/　Phrase Learning 11 |
| 04 | Chapter 9：Listening & Grammar　/　Phrase Learning 12 |
| 05 | Chapter 9：Conversation & Reading　/　Phrase Learning 13 |
| 06 | Chapter 10：Listening & Grammar　/　Phrase Learning 14 |
| 07 | Chapter 10：Conversation & Reading　/　Phrase Learning 15 |
| 08 | Review（Chapter 8~10） |
| 09 | 英語の歌・絵本① |
| 10 | Chapter 11：Listening & Grammar　/　Phrase Learning 16 |
| 11 | Chapter 11：Conversation & Reading　/　Phrase Learning 17 |
| 12 | 英語の歌・絵本② |
| 13 | Chapter 12：Listening & Grammar　/　Phrase Learning 18 |
| 14 | Chapter 12：Conversation & Reading　/　Phrase Learning 19 |
| 15 | Review（Chapter 11~12）　/　Phrase Learning 20 |
| 16 | Final Exam |

2018年度シラバス

| 科目名:中国語と文化Ⅲ | 担当者:高　文軍 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限:初級中国語を習得した者 | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>この授業は1年次中国語を習得した学生を対象とする。初歩的な中国語でのコミュニケーションできる上、少しずつレベルアップ。問題練習を通して学習事項の定着を図るとともに、視聴覚資料を使って、中国や中国文化に対する理解を深める。方法として、基本テキストを使い、単語、文法の理解、練習問題の解き方まで、積み重ねて進む。特に発音の練習を重視すること。 |
| 授業の到達目標<br>基本発音を復習した後、ワンステップ上の中国語を学ぶ。物の尋ね方と答え、疑問など簡単な基本表現を、繰り返し練習することによって身につけ、自分の口から言える、使えることが最終目標である。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修<br>授業時間内で学んだ内容の復習と次の事前予習など。7時間以上の課外学習が必要。　映画、音楽、時事など中国文化に関することに興味を持たせること。 |
| 評価方法<br>　平常点（授業への参加、貢献度、宿題、小テストなど）　40%。口頭テスト　10%。　　定期試験　50%。 |

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 『初級中国語 教科書＋ドリル』 白帝社 | 『ことばの散歩道』Ⅰ～Ⅳ　白帝社 |

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>研究室は7号館7322室、オフィスアワーは、月曜日２限 メールアドレス：gaowj@ohkagakuen-u.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 01 | 1年次要点チェック、復習 |
| 02 | ドリル1～20 |
| 03 | 第21課　学校から遠いですか |
| 04 | 第22課　中国語が話せますか |
| 05 | 第23課　中国に行ったことがありますか |
| 06 | 第24課　それとも |
| 07 | 第25課　何をしているのですか |
| 08 | 听写（五）体験学習 |
| 09 | 第26課　昼ご飯を食べましたか |
| 10 | 第27課　私が作った料理 |
| 11 | 第28課　聞いて分かりましたか |
| 12 | インターナショナルデイ |
| 13 | 中国映画鑑賞 |
| 14 | 復習　口頭テスト |
| 15 | 総まとめ、復習 |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:中国語と文化Ⅳ | 担当者:高　文軍 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限:初級中国語を習得した者 | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>この授業は1年次中国語を習得した学生を対象とする。初歩的な中国語でのコミュニケーションできる上、少しずつレベルアップ。問題練習を通して学習事項の定着を図るとともに、視聴覚資料を使って、中国や中国文化に対する理解を深める。方法として、基本テキストを使い、単語、文法の理解、練習問題の解き方まで、積み重ねて進む。特に発音の練習を重視すること。 |
| 授業の到達目標<br>基本発音を習得した上で、中級中国語を学ぶ。物の尋ね方と答え、疑問など簡単な基本表現を、繰り返し練習することによって身につけ、自分の口から言える、使えることが最終的な目標である。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修<br>授業時間内で学んだ内容の復習と次の事前予習など。1週間に30分~1時間の課外学習が必要。　映画、音楽、時事など中国文化に関することに興味を持つこと。 |
| 評価方法<br>平常点（授業への参加、貢献度、宿題、小テストなど）　40%。口頭テスト　10%。　　定期試験　50%。 |

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 『初級中国語 教科書＋ドリル』 白帝社 ほかに補充資料 | 『ことばの散歩道』Ⅰ～Ⅳ　白帝社ほか |

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>中国語に興味を持つ事は何より大事。 研究室は7号館7322室、オフィスアワーは、月曜日２限 メールアドレス：gaowj@ohkagakuen-u.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 01 | 前期要点チェック、単語の聞き取り練習 |
| 02 | 第２９課　お待たせしました |
| 03 | 第３０課　我が家へようこそ |
| 04 | 听写２６～３０　おわりに |
| 05 | ドリル1～３０復習（１） |
| 06 | ドリル1～３０復習（２） |
| 07 | 小テスト |
| 08 | 映画で学ぶ中国語（１） |
| 09 | 映画で学ぶ中国語(2) |
| 10 | 映画で学ぶ中国語(3) |
| 11 | DVD「中国語会話」(1) |
| 12 | DVD「中国語会話」(2) |
| 13 | DVD「中国語会話」(3) |
| 14 | 要点整理、ポイント復習 |
| 15 | 総復習 |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:韓国語と文化Ⅲ | 担当者:都　恩珍 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限:韓国語と文化Ⅱを履修した者、またはそれ相当の能力があると認められる者に限る。 | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
いろいろな文法項目や表現を学びながら、動詞・形容詞の活用をしっかり覚え、対話形式の会話文に慣れることを目標にします。授業は、テキストを中心に進めますが、別配布の資料を使って文型練習をし、ペアーワークで会話の練習をします。また、韓国のいろいろな生きた文化に触れながら理解を深めます。International Dayには、グループで取り組んだ文化学修内容を発表します。毎回の授業の終わりにリフレクションを書き、自らの学修を振り返ります。単元ごとに確認テストを行います。

授業の到達目標
動詞・形容詞を活用して簡単な日常会話ができるようになります。目指す修得語彙数は500語です。　少なくても韓国文化の一つや二つのテーマについて理解でき、説明できるようになります。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：CDを聞いて音読の練習をしてください。必要時間：約30分事後学修：単語帳に単語をまとめ、覚えてください。必要時間：約１時間

評価方法
確認テスト3回　80%、単語帳・課題　10%　リフレクション・授業態度　10%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 楽しもう韓国語（白帝社）金孝珍　⇒韓国語と文化Ⅱで使用したテキスト | 授業中に提示します。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
毎回の授業のリフレクションを復習・予習に結びつけましょう。連絡方法は授業中に提示します。　オフィスアワー：金曜日３限　　・諸事情により予定を変更することもあります。

| | |
|---|---|
| 01 | ガイダンス、韓国語と文化Ⅰ・Ⅱの復習 |
| 02 | 第6課　별로 안 멀어요?　否定表現 |
| 03 | 第6課　별로 안 멀어요?　否定表現の練習 |
| 04 | 応用練習、確認テスト（１） |
| 05 | 第7課　생일은 언제예요?　漢数字を使った表現 |
| 06 | 第7課　생일은 언제예요?　漢数字を使った表現の練習 |
| 07 | 第8課　일곱 시부터 아홉 시까이예요　固有数字を使った表現 |
| 08 | 第8課　일곱 시부터 아홉 시까이예요　固有数字を使った表現の練習 |
| 09 | 応用練習、確認テスト（２） |
| 10 | 第９課　지난주 토요일에 콘서트에 갔어요　過去形 |
| 11 | 第９課　지난주 토요일에 콘서트에 갔어요　過去形の練習 |
| 12 | 文化体験（International Day）　＊教室変更 |
| 13 | 第１０課　정말 젊어보이시네요　尊敬語 |
| 14 | 第１０課　정말 젊어보이시네요　尊敬語の練習 |
| 15 | 応用練習、確認テスト（３） |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:韓国語と文化Ⅳ | 担当者:都　恩珍 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限:韓国語と文化Ⅲを履修した者、またはそれ相当の能力があると認められる者に限る。 | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
やや複雑な文型と表現を学びながら、いろいろな場面でのやりとりができることを目標にします。授業は、テキストを中心に進めますが、別配布の資料を使って文型練習をし、ペアーワークで会話の練習をします。また、韓国のいろいろな生きた文化に触れながら理解を深めます。毎回の授業の終わりにリフレクションを書き、自らの学修を振り返ります。単元ごとに確認テストを行います。

授業の到達目標
文体や表現を使い分けながら会話ができ、動詞・形容詞の過去形活用ができるようになります。　目指す修得語彙数は1000語です。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：CDを聞いて音読の練習をしてください。必要時間：約30分　事後学修：単語帳に単語をまとめ、覚えてください。必要時間：約１時間

評価方法
確認テスト５回　80%、単語帳・課題　10%、授業態度・リフレクション　10%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 楽しもう韓国語（白帝社）金孝珍　⇒韓国語と文化Ⅲのテキストを継続使用 | 授業中に提示します。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
毎回の授業のリフレクションを復習・予習に結びつけましょう。連絡方法は授業中に提示します。　オフィスアワー：金曜日３限　　・諸事情により予定を変更することもあります。

| | |
|---|---|
| 01 | ガイダンス・韓国語と文化Ⅲの復習 |
| 02 | 確認テスト（１） |
| 03 | 第11課　연휴 때 뭐 하고 싶어요?　希望表現 |
| 04 | 第11課　연휴 때 뭐 하고 싶어요?　希望表現の練習 |
| 05 | まとめ、確認テスト（２） |
| 06 | 第12課　길이 많이 막혀서 늦었어요　意志・推量表現 |
| 07 | 第12課　길이 많이 막혀서 늦었어요　意志・推量表現の練習 |
| 08 | まとめ、確認テスト（３） |
| 09 | 第13課　부모님이 일본으로 여행을 가셨어요.　尊敬の過去形 |
| 10 | 第13課　부모님이 일본으로 여행을 가셨어요.　尊敬の過去形の練習 |
| 11 | まとめ、確認テスト（４） |
| 12 | 第14課　조금 일찍 출발할까요?　仮定・条件表現 |
| 13 | 第14課　조금 일찍 출발할까요?　仮定・条件表現の練習 |
| 14 | まとめ、確認テスト（５） |
| 15 | 文化体験（韓国の食文化）　＊教室変更 |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:日本国憲法 | 担当者:早野　暁 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限:不要 | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
　法の支配（法による統治）、それは自由社会を理想とする国家にとっての基本原理である。しかし国民の福祉のために作り出される法律こそが人民の自由を不当に制約する性質を内在させている。恣意的な統治権の行使を防止する目的で権力分立の発想が生まれたこと、また、多数派による少数派の抑圧の防止の方便として憲法が存在し、かつ、司法府に違憲立法審査権があることを理解するための講義である。

授業の到達目標
　国民個人の「自由」と国の統治権の行使の結果実現される「正義」というものが相反する作用の関係にあることを理解できる。基本権あるいは人権思想が発達してきた歴史上の経緯を知り、三権分立の目的が理解できること。権利や自由には内在的な制約があり、国民はこれを濫用せずに公共の福祉に反しない形で行使しなければならないことの真意を理解できる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業計画に示した各回の項目を事前に予習し、理解の困難な箇所を把握しておくこと。授業の後には争点や論点が何か、つまり、何が問題となり何が解決策の基準となるかを整理できるように復習すること。統治制度や法制度の基本理念を最終的には全体構造として捉えられるように、基本権各論を勉強すること。各項目で扱った判例（裁判所の判断）の射程範囲を理解するにとどまらず、判例の立場の当否を充分な理由を示して検討しうるだけの知見・素養を体得できることが望ましい。

評価方法
学期末定期試験（論述筆記試験）の得点成績で評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 森口佳樹ほか著『ワンステップ憲法』嵯峨野書院 | なし |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
堅苦しく難解なイメージを抱かれやすい「憲法学」や「法学」ですが、できるだけ分かりやすく説明しますので、少しでも興味のある方は足を踏み入れてみてはどうですか。

| | |
|---|---|
| 01 | 憲法を学ぶ前に。なぜ法により国（社会）を統治するのか。 |
| 02 | 紛争解決の基準。法源の種類。 |
| 03 | 基本権と公共の福祉。法の下の平等。 |
| 04 | 思想・良心の自由。表現の自由。 |
| 05 | 財産権。営業の自由。職業選択の自由。 |
| 06 | 信教の自由。 |
| 07 | 勤労者の権利。労働基本権。 |
| 08 | 裁判を受ける権利。裁判員制度。 |
| 09 | 生存権。健康で文化的な最低限度の生活とは何か。 |
| 10 | 刑事司法制度。人身の自由。 |
| 11 | 戦争放棄と自衛権。 |
| 12 | 民主主義の長所と短所。議院内閣制。 |
| 13 | 憲法と条約。 |
| 14 | 保育事業と憲法。 |
| 15 | 全講義の総復習。 |
| 16 | 学期末試験 |

2018年度シラバス

| 科目名:海外研修Ａ | 担当者:高文軍・都恩珍・井川恵理 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 実習 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 前期･後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限:パソコン使用 | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
本授業は学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語および異文化を理解し、論理的な発信ができる能力」に関連している。海外研修Aは、２週間以上の現地研修を原則とし、英語以外の言語および言語環境で生活する中で社会や文化への理解を深め、語学力を伸ばすことを目的とする。A. Coure Description担当者と各自相談の上、適切なプログラム、国、地域での語学研修を含め、文化・社会理解のための海外研修を行う。２～３週間、毎週１５時間以上（語学研修充実のためには週20時間以上が望ましい）の語学研修を含む内容を原則とする（４週間以上は「海外研修B」として登録するので注意すること）。B. General Approach説明会の後、研修を希望する学生は、各担当者（中国研修は高、韓国研修は都、それ以外は井川）と面談の日程を決め、研修希望内容に合致したプログラムの検討を始める。担当者が推薦する旅行業者等を活用することが望ましい。各自が選んだプログラムの場合、その内容や担当旅行業者について確認が必要となる。C. Relationship with Other Courses 中国語・韓国語・スペイン語関係の諸科目、International Relations, Asian Studies, Oceanian Studies,American Studies, British Studies　等

授業の到達目標
本研修を実施する者は、各自、次の項目に基づき目標を定めること。１．語学能力の向上２．滞在地における社会、生活、文化理解３．研修の準備を自分で行い、外国での実践による、自律した学修者としての自覚を持つ

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
本研修にあたっては、次の手順で準備、実践、事後課題提出・発表を行う。１．研修実施地については各自が選択可能。信頼できる旅行会社等が提供するプログラムからの選択、独自に学校等に直接申し込むことも可能である。いずれの場合も、どの言語をどのような環境で学ぶか、また安全性について事前に外務省HP等で確認した上で決定する。＜実施２ヶ月前までに＞２．各自研修の目標を事前にたて、日誌、発表や報告書内にて、その達成度について確認する。３．研修時間数　週１５時間以上　語学研修充実のため、可能な限り週20時間以上のコースを受講すること。４．上記プログラムを担当者に示し、研修計画書を所定の日時までに提出した上で実施許可を得る。５．現地での研修の日誌。６．帰国後の課題として、日誌と報告書を提出し、所定の日時に学内で研修内容についての発表を他学生、教員の前で行う。

評価方法
日誌40%、ポートフォリオ（計画書、研修後報告書　日本語1200字程度または英語1000語程度）30%、学内プレゼンテーション30%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| | |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
担当者との打ち合せ、事前の準備を綿密にすること。

| | |
|---|---|
| 01 | |
| 02 | |
| 03 | |
| 04 | |
| 05 | |
| 06 | |
| 07 | |
| 08 | |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

| 科目名:海外研修Ｂ | 担当者:高文軍・都恩珍・井川恵理 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 実習 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 前期･後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 4 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
本授業は学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語および異文化を理解し、論理的な発信ができる能力」に関連している。海外研修Aは、英語以外の言語および言語環境で生活する中で社会や文化への理解を深め、語学力を伸ばすことを目的とする。A. Coure Description担当者と各自相談の上、適切なプログラム、国、地域での語学研修を含め、文化・社会理解のための海外研修を行う。４週間以上、毎週１５時間以上（語学研修充実のためには週20時間以上が望ましい）の語学研修を含む内容を原則とする（２～３週間を希望する場合は「海外研修B」として登録するので注意すること）。B. General Approach説明会の後、研修を希望する学生は、各担当者（中国研修は高、韓国研修は都、それ以外は井川）と面談の日程を決め、研修希望内容に合致したプログラムの検討を始める。担当者が推薦する旅行業者等を活用することが望ましい。各自が選んだプログラムの場合、その内容や担当旅行業者について確認が必要となる。C. Relationship with Other Courses 中国語・韓国語・スペイン語関係の諸科目、International Relations, Asian Studies, Oceanian Studies,American Studies, British Studies　等

授業の到達目標
本研修を実施する者は、各自、次の項目に基づき目標を定めること。１．語学能力の向上２．滞在地における社会、生活、文化理解３．研修の準備を自分で行い、外国での実践による、自律した学修者としての自覚を持つ

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
本研修にあたっては、次の手順で準備、実践、事後課題提出・発表を行う。１．研修実施地については各自が選択可能。信頼できる旅行会社等が提供するプログラムからの選択、独自に学校等に直接申し込むことも可能である。いずれの場合も、どの言語をどのような環境で学ぶか、また安全性について事前に外務省HP等で確認した上で決定する。＜実施２ヶ月前までに＞２．各自研修の目標を事前にたて、日誌、発表や報告書内にて、その達成度について確認する。３．研修時間数　週１５時間以上　語学研修充実のため、可能な限り20時間以上のコースを受講すること。４．上記プログラムを担当者に示し、研修計画書を所定の日時までに提出した上で実施許可を得る。５．現地での研修のzっし。６.．帰国後の課題として、日誌と報告書を提出し、所定の日時に学内で研修内容についての発表を他学生、教員の前で行う。

評価方法
日誌40%、ポートフォリオ（計画書、研修後報告書　日本語1200時程度または英語1000語程度）30%、学内プレゼンテーション30%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| | |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
担当者との打ち合せ、事前の準備を密接にすること。

| | |
|---|---|
| 01 | |
| 02 | |
| 03 | |
| 04 | |
| 05 | |
| 06 | |
| 07 | |
| 08 | |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

2018年度シラバス

| 科目名:現代社会と女性 | 担当者:嶋守　さやか | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
この授業は「自分を知る」科目群の一つである。授業では、現代の日本および世界の子ども、女性、環境の状況と保育についての現状を把握し、一見男女平等社会に見える現代社会で女性はどういう問題をかかえているのか。また、それらの問題が生じる社会・歴史的な背景を理解し、その問題解決の視点を保育に生かす方法について考察します。

授業の到達目標
　現代女性の結婚・出産・労働の現状を学び、女性のライフコースについて考察することで、保育・子育て支援サービスを利用する女性が置かれている社会的立場やその現状が説明できるようになる。女性としての主体的な生き方とは何かを理解し、具体的将来像を描けるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　単元ごとに配布するワークシートの解答を準備学修とします。その上で授業に参加し、各学生がワークシートに記述した内容の確認、事後課題への解答を事後学修として行います。授業期間中に３回、理解度評価を行いますが、各理解度評価の前週にその内容についての解説を行います。

評価方法
評価は、理解度評価70%、毎授業後に提出するミニコメントシート（毎授業後のまとめ）30%にて行います。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 嶋守さやか・廣田貴子『Sheという生き方』新評論 | 適宜、指示します |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書を積極的に通読すること。授業内容に関する重要な連絡は、授業時間中に適宜行います。オフィスアワーは毎週金曜日のお昼休みとします。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション：講義概要の説明 |
| 02 | 女性とライフコース：仕事と結婚（１）教科書の第１部の事例検討 |
| 03 | 女性とライフコース：仕事と結婚（２）グループディスカッション |
| 04 | 第１回　理解度評価および解説 |
| 05 | 女性とライフコース：出産（１）教科書第３部の事例検討 |
| 06 | 女性とライフコース：出産（２）グループディスカッション |
| 07 | 第２回　理解度評価および解説 |
| 08 | 女性とライフコース：子育て（１）教科書第２部の事例検討 |
| 09 | 女性とライフコース：子育て（２）グループディスカッション |
| 10 | 第３回　理解度評価および解説 |
| 11 | 性別・性差・性役割（１）――　ジェンダー理解 |
| 12 | 性別・性差・性役割（２）――　性と暴力 |
| 13 | 映像資料にみる現代社会と女性（１）性差と役割規範の考察 |
| 14 | 映像資料にみる現代社会と女性２）グループディスカッション |
| 15 | 第４回　理解度評価および解説 |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:女性とジェンダー | 担当者:成田　弘成 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:特になし | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
この授業は桜花学の「自分を知る」科目群の科目です。従って、この授業では、現代社会におけるジェンダーを理解するという目標の基に、世界の多様な事例を取り上げ、女性のエンパワーメントの必要性について学びます。特に開発援助の分野では、ジェンダーの視点による支援も必須になっているので、「開発とジェンダー」の手法についても説明をしてゆきます。グローバル時代に活躍する女性たちについても理解を深めましょう。

授業の到達目標
ジェンダー関連する文献を読み、また映像を通して世界の現状と問題点を知り、女性の活躍する時代背景を理解することを目指します。多くの国で異なるジェンダーの諸相を理解すると共に、学んだ知識をもとに適切に考え・行動する力を身につけるようにします。また、女性のエンパワーメントを高める意義やその具体的方法を知るようにします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日頃から新聞などに目を通し、国際的に問題となっている事柄に関心を持つようにしましょう。また、日常的に様々な人とのコミュニケーションも大切にして、人間の尊厳への高い意識を持つようにして下さい。授業の前には、その当日のテーマについて、資料等で準備しておきましょう。また授業後では、配布された資料を熟知するようにしましょう。また小テストなどで、自分の理解度を確認してください。予習・復習には、毎週２時間以上の時間をかけ、しっかりと理解できるようにしてください。

評価方法
授業への参加態度30%　小テスト30%　期末レポート40%

| 教科書<br>特になし | 参考図書<br>その都度、指示します。 |
|---|---|

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
やむなく欠席する場合には、事前に教員に相談してください。担当教員の研究室は7号館3階。オフィスアワーは月曜日の昼休み12時30分から13時。

| | |
|---|---|
| 01 | ジェンダーの概念 |
| 02 | アメリカにおける女性のエンパワーメントの歴史1 |
| 03 | アメリカにおける女性のエンパワーメントの歴史2 |
| 04 | アメリカにおける女性のエンパワーメントの歴史3 |
| 05 | 途上国の女性支援1 |
| 06 | 途上国の女性支援2 |
| 07 | 途上国の女性支援3 |
| 08 | 政治とジェンダー1.ミャンマーのアン・サン・スーチー |
| 09 | 政治とジェンダー2.パキスタンのマララ・ユスフザイ |
| 10 | 政治とジェンダー3.その他 |
| 11 | 女性とNGO1.マザーテレサ |
| 12 | 女性とNGO2. |
| 13 | 女性とNGO3. |
| 14 | 女性とビジネス1. |
| 15 | 女性とビジネス2. |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:女性とジェンダー | 担当者:石月　静恵 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須. 選択 | |

授業概要と方法
この授業では、世界史の中の著名女性に焦点を当て、ジェンダーの視点からそれぞれの時代と生き方を考察します。授業は、映像を用いて、それぞれの時代を視覚的にも理解し、女性の生き方が、国などの置かれた状況に左右されてきたこと、それでもなお個性的に生きたことを学びます。

授業の到達目標
ジェンダーについての基本的理解を深め、ジェンダーに敏感な視点が形成できるようになることを目標にします。また、世界史上で著名な女性たちが、どのような航跡をたどったのかを理解すると同時に、映像における描き方についても意識的に分析できるようになることを目指します。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
テキストを指定しませんが、事前に参考文献について紹介しますので、参照しておいてください。また、辞書・百科事典・インターネットなど各自工夫して事前学修してください。また、配布プリントやワークシートに従って、事後学修を行ってください。

評価方法
特別な場合を除き、6回以上欠席した場合は不合格とします。評価は、テストによる理解度評価を70%、映像鑑賞後のワークシートを含め、受講態度を30%で行います。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| なし | 適宜紹介します。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段については授業時間にお知らせします。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション：ジェンダーとは何か |
| 02 | 16世紀ヨーロッパの状況とジェンダー |
| 03 | エリザベス1世とその時代①（映画『エリザベス・ゴールデンエイジ』を見る） |
| 04 | エリザベス1世とその時代② |
| 05 | 18世紀ヨーロッパの状況とジェンダー |
| 06 | フランス革命とマリーアントワネット①（映画『マリーアントワネット』を見る） |
| 07 | フランス革命とマリーアントワネット② |
| 08 | 19世紀の世界とジェンダー |
| 09 | 20世紀初頭の世界と女性参政権運動①（映画『未来を花束にして』を見る） |
| 10 | 20世紀初頭の世界と女性参政権運動② |
| 11 | 第2次世界大戦とジェンダー①（映画『アンネフランク』を見る） |
| 12 | 第2次世界大戦とジェンダー② |
| 13 | 女性首相の誕生とジェンダー①（映画『マーガレット・サッチャー』を見る） |
| 14 | 女性首相の誕生とジェンダー② |
| 15 | まとめ |
| 16 | テスト |

2018年度シラバス

| 科目名:芸術の世界 | 担当者: | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
本授業は、桜花学の「人間を知る」という群に配置された大学共通教養科目である。この群の内容は、芸術や文学、心理学、哲学を通じて人間や人間の心の諸相を把握するというものである。本授業では、音楽・美術等、芸術に関して多角的に幅広く講義し「芸術とはなにか」を追求する。芸術の細かな知識を身につけるのではなく、世界共通の文化として概略的に理解・経験することを目標とし学修する。音楽作品と美術作品を様々な形式で鑑賞し、講義と併せて授業を展開する。

授業の到達目標
①芸術とは何かを理解できるようにする。②芸術を鑑賞する力や方法を身につける。③芸術を実際に体感・鑑賞し、芸術に対する理解を深める。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・美術館・音楽会等に参加して芸術鑑賞を自らすすんで行うこと。

評価方法
・レポート評価(50%)、毎回の授業の終わりのリフレクション等（省察・振り返り：ミニッツペーパー等を記述）への対応（30%）、授業への参加態度(20%)を対象として総合評価を行います。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 適宜プリントを配布します。 | |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
「芸術」は幅の広い概念です。普段から「芸術」に興味を持って、自らの幅を広げましょう。連絡はisiyama@ohkagakuen-u.ac.jpまで。

2018年度シラバス

| 科目名:文学の世界 | 担当者:太田　昌孝 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須. 選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
本講義は桜花学の「人間を知る」という群に配置された大学共通教養科目である。この群の内容は、芸術や文学、心理学、哲学を通じて人間や人間の心の諸相を把握するというものである。本講義では､前述の内容を踏まえ、主に宮沢賢治の作品分析及びその考え方、視点、生き様などを学ぶことにより、言語芸術の持つ特性について学修し、人間性を涵養する。

授業の到達目標
①　文学の基礎知識を習得する。②　小説や詩という文芸を学ぶことにより、言語感覚を錬磨し、作品鑑賞の力を習得する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
①　言語表現一般に興味関心を抱き、努めてその鑑賞及び読解を試みる。②　実際に創作する機会を持つように努める。

評価方法
　講義に取り組む姿勢、（10）ミニレポート・創作（不定期/20）、定期試験（レポート/70）によって評価する。『宮沢賢治全集』筑摩書房

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| プリントを用意します。 | 『宮沢賢治全集』筑摩書房 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
系統的な講義なので欠席をしないように。連絡方法については講義で指示する。

| | |
|---|---|
| 01 | 講義概説（講義の目標とその概説） |
| 02 | 宮沢賢治入門1（宮沢賢治の生涯） |
| 03 | 宮沢賢治入門2（宮沢賢治と岩手） |
| 04 | 作品鑑賞1（宮沢賢治の詩1）「雨ニモ負ケズ」 |
| 05 | 作品鑑賞2（宮沢賢治の詩2）「稲作挿話」 |
| 06 | 作品鑑賞3（宮沢賢治の詩3）「冬のスケッチ」 |
| 07 | 作品鑑賞4（宮沢賢治の詩4）「春と修羅」（序） |
| 08 | 作品鑑賞5（宮沢賢治の詩5）「永訣の朝」 |
| 09 | 作品鑑賞6（宮沢賢治の詩6）「青森挽歌1」 |
| 10 | 作品鑑賞７（宮沢賢治の詩7）「青森挽歌2」 |
| 11 | 作品鑑賞8（宮沢賢治の童話1）「どんぐりと山猫」 |
| 12 | 作品鑑賞9（宮沢賢治の童話2）「虔十公園林」 |
| 13 | 作品鑑賞10（宮沢賢治の童話3）「ざしき童子の話」 |
| 14 | 作品鑑賞11（宮沢賢治の童話4）「セロ弾きのゴーシュ」① |
| 15 | 作品鑑賞12（宮沢賢治の童話5）「セロ弾きのゴーシュ」② |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:心の探求 | 担当者:布施　佐代子 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須. 選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
本授業は、桜花学の「人間を知る」という群に配置された大学共通教養科目です。この群の内容は、芸術や文学、心理学、哲学を通じて人間や人間の心の諸相を把握するというものです。人間としての心の豊かさの重要性が注目されてきている今日、本授業では、人間の心のしくみについて研究する心理学の基本的な考え方を学びながら心とはなにかを考え、「心を持つ人間」としての他者と自分をみつめる力を養い、心豊かな人間になる道を探ります。

授業の到達目標
１．心理学の基礎知識を習得することを通して、人間と人間の心についての理解を深める。。２．心理学の理論と自分の身近な問題とを結びつけて考えられるようになる。３．「心を持つ人間」として他者と自分をみつめ大切にする力を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
人間として生きていく上では、さまざまな人と関わる機会があり、いろいろな感情を抱いたり、自分の気持ちに向き合ったりすることも出てきます。「心を持つ人間」としての他者と自分の姿を日常のいろいろな場面で感じ、なぜそう思うのか考えてみるようにしましょう。授業の準備学修として、学ぶ範囲の事柄に関する日常的な観察と考察、事後学修としては、授業で学んだことをポイントを中心に振り返り、徹底理解に努めてください。

評価方法
定期試験　60%、課題レポート等の提出物　20%、授業への参加態度　20%で、総合的に評価します。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 使用しません。毎回資料を配布します。 | 授業時に適宜紹介します。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
自分を含め人間そのものへの関心を常にいろいろな場面で持つように努めて、人間の心の不思議さ・おもしろさを感じられるよう願っています。オフィスアワーは月曜・金曜のお昼休みです。連絡先は授業でお伝えします。

| | |
|---|---|
| 01 | 心の世界への招待　―　科学としての心理学が誕生するまでの歴史をたどる　― |
| 02 | 知覚　―　私たちは周りの世界をどのようにして知るのか　― |
| 03 | 記憶　―　物事を覚えたり忘れたりするしくみ　― |
| 04 | 学習　―　「学ぶ」とはどういうことか、学びのしくみ　― |
| 05 | 思考と言語　―　考えるしくみと言葉を使うしくみ　― |
| 06 | 知能と創造性（１）　　知能と創造性との違いは何か、知能と学力と創造性の関係 |
| 07 | 知能と創造性（２）　　子どもの教育・保育とのかかわりで考える |
| 08 | 脳と心　―　脳科学と心理学はどうつながるのか　― |
| 09 | 感情・動機づけ（１）　　人間の喜怒哀楽と「やる気」のしくみ |
| 10 | 感情・動機づけ（２）　　子どもの教育・保育とのかかわりで考える |
| 11 | 社会的認知　―　他者を知ることのしくみ、個人の心理と集団心理　― |
| 12 | 性格・パーソナリティー　―　心の個人差と適応のしくみを知る　― |
| 13 | 発達（１）　人間としての発達過程とそのしくみ　―　胎児期から老年期まで　― |
| 14 | 発達（２）　人間としての発達に影響を与えるものを考える |
| 15 | 心の不調とメンタルヘルス　―　ストレスの多い現代社会と人間の心　― |
| 16 | 定期試験 |

2018年度シラバス

| 科目名:生き方の探求 | 担当者:井上　文人 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須. 選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
本授業は、桜花学の「人間を知る」という群に配置された大学共通教養科目です。この群の内容は、芸術や文学、心理学、哲学を通じて人間や人間の心の諸相を把握するものです。本授業は、〈世界の在り方〉とその中での〈人間の生き方〉を考察する学問である「哲学」に基づいて、「信念ある女性を育成する」ために、人間が生きる日常の中の様々な生き方の諸問題の哲学的考察を通じて、〈自己の生き方を探求する〉ことを本授業の概要と方法とします。

授業の到達目標
①〈人間と人間の心〉の本質的な理解を獲得します。②〈人間の生き方〉の諸問題を体系的に理解します。③〈自己の生き方〉についての根本的な考察能力を修得します。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学習：本授業で扱われる〈人間の生き方の諸問題と課題〉の継続的で日常的な準備学修：２時間事後学習：本授業で扱われる〈人間の生き方の諸問題と課題〉の継続的で日常的な事後学習：２時間

評価方法
成績評価は、①授業への参加態度30％と②期末レポート70％の配分にもとづいて行います。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 教科書はありません。毎回資料を配布します。 | 授業中に指示します。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
〈人間の生き方の諸問題と課題〉は継続的で日常的な考察が重要です。生き方を自覚化しましょう。連絡先は授業で開示します。

| | |
|---|---|
| 01 | 授業ガイダンス |
| 02 | 自己分析アンケート |
| 03 | 「シンデレラ・コンプレックス」と女性の生き方 |
| 04 | 現代を生きる女性達の生き方の問題 |
| 05 | 「ピーターパン・シンドローム」と男性の生き方 |
| 06 | 現代を生きる男性達の生き方の問題 |
| 07 | 現代を生きる人間の生き方の課題と哲学 |
| 08 | 『君たちはどう生きるか』 |
| 09 | 「コペル君」と「世界観」 |
| 10 | 『ぼくを探しに』 |
| 11 | 『ビックオーとの出会い』 |
| 12 | 「自分探し」とは何か？ |
| 13 | 『〈未来〉は〈いま〉にある』他 |
| 14 | 『私の〈仮面〉』他 |
| 15 | 『〈自分創り〉は〈他者創り〉』他・まとめ |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:生活と経済 | 担当者:森田　優己 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:なし | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>本講義「生活と経済」は、桜花学の中の「社会を知る」科目群に位置付けられている。社会の土台を形成する経済に関する知見を得ることは、社会に寄与することができる「信念ある女性」となるための必須教養の一つである。この講義では、Moodleを通じて事前に配布される簡単な問いの答えを考えてから授業にのぞんでもらい、その疑問に答える形で授業をすすめる。授業の最後に再度問題に答えてもらい、次週のリフレクションに役立てる。 |
| 授業の到達目標<br>本講義の目的は、生き方や幸福感は「人それぞれ」であることを前提にして、では、「人それぞれ」に幸せになるためには、何が必要であるのかを理解し、その有限であるとともに誰にとっても共通の資源であるお金と時間をどのように使えばいいのかを考える方法の修得を目的としている。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修<br>事前にMoodle 上の問いの答えを考え、授業に臨む。授業後には、単元の復習をしておく必要がある。事前事後学修を合わせて、毎週2時間相当の自習が必要となる。最初は、これまでになじみのない言葉に戸惑うかもしれないが、日々の生活の中で体験していることを経済学的に考えてみる授業であるので、言葉になれることが大切である。 |
| 評価方法<br>授業への参加態度40%、定期試験60% |

| 教科書<br>使用せず | 参考図書<br>授業中に指示する |
|---|---|

| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>授業時間外での質問は、オフィスアワーに研究室で受け付ける。この時間以外については、メールでアポイントをとること。オフィスアワーの時間とメールアドレスは、授業時間内に開示する。 |
|---|

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション |
| 02 | 稀少性と選択 |
| 03 | 機会費用 |
| 04 | 市場と価格 |
| 05 | いろいろな価格 |
| 06 | 裁定取引とは |
| 07 | お金の役割 |
| 08 | 所得と財政 |
| 09 | 企業と起業 |
| 10 | 比較優位の原則 |
| 11 | 資源配分と資源の分配 |
| 12 | 為替レート |
| 13 | 経済成長 |
| 14 | 世代と世代の利害対立？ |
| 15 | まとめ |
| 16 | 定期試験 |

2018年度シラバス

| 科目名:地域社会 | 担当者:嶋守　さやか | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
この科目は「社会を知る」の科目です。授業ではまず、社会学の学問的なイメージをつかんでもらい、人々が生まれ、育ち、学び、働き、自らの子ども達を育て、自己を実現していくというプロセスと、人々が出会う人間関係と地域の問題を社会学的に考察します。また、「地域社会で生きていくための課題」をグループワーク等により実践的に学びます。

授業の到達目標
　授業では、社会学理論の「読み方」を学び、その「読み方」をふまえた上で、現代社会の成り立ちや社会問題が問題化されるプロセスを知ること。また、自分自身が生きる地域社会についての理解を深めること。そして、社会全体における問題の構造を見通せる力を育成・獲得することを学修の到達目標とします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　単元ごとに配布するワークシートの解答を準備学修とします。その上で授業に参加し、各学生がワークシートに記述した内容の確認、事後課題への解答を事後学修として行います。授業期間中に３回、理解度評価を行いますが、各理解度評価の前週にその内容についての解説を行います。

評価方法
評価は、理解度評価60%、グループワークの相互評価30%、ミニコメントシート（毎授業後のまとめ）10%にて行います。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 嶋守さやか『孤独死の看取り』新評論、2015年 | 適宜指示します |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この科目に関わる基礎的な知識を有すること。授業内容に関する重要な連絡は、授業時間中に適宜行います。オフィスアワーは毎週金曜日のお昼休みとします。

| | |
|---|---|
| 01 | 授業オリエンテーション（授業目的、授業の進め方等についての説明） |
| 02 | E. デュルケームの社会学 |
| 03 | グループワーク演習から理解するE. デュルケームの社会学理論 |
| 04 | グループディスカッションおよびプレゼンテーション① |
| 05 | 第１回　理解度評価および解説 |
| 06 | M. ウェーバーの社会学 |
| 07 | 社会福祉体験演習から理解するM. ウェーバー理論（前編） |
| 08 | グループディスカッションおよびプレゼンテーション② |
| 09 | 社会福祉体験演習から理解するM. ウェーバー理論（後編） |
| 10 | グループディスカッションおよびプレゼンテーション③ |
| 11 | 第２回　理解度評価および解説 |
| 12 | 映像資料から考える地域社会の課題（前編） |
| 13 | 映像資料から考える地域社会の課題（後編） |
| 14 | グループディスカッションおよびプレゼンテーション④ |
| 15 | 第３回　理解度評価および解説 |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:人間と歴史 | 担当者:小久保　嘉紀 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
「昔話などから見る日本史」　神話・昔話・童謡・絵本・詩・現代メディアなどに反映される歴史的背景を読み取り、日本史の各時代がどのようなものであったのかについて考察する。それを踏まえ、各時代での子供の位置付けや、海外文化の導入の歴史についてもアプローチを行う。

授業の到達目標
　昔話などの媒体を通して、歴史的背景を読み取る力を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　準備学習：授業計画で挙げた昔話の内容を把握しておくこと。　事後学習：授業で挙げた参考文献を読んでみるとよいでしょう。

評価方法
　筆記試験50%＋平常点（授業のまとめ）50%

教科書
　使用しない。

参考図書
　・稲田浩二・稲田和子編『日本昔話ハンドブック』（三省堂、2001年）　・小澤　俊夫『昔話のコスモロジー―ひとと動物との婚姻譚―』（講談社学術文庫、1994年）　・古川のり子『昔ばなし―あの世とこの世を結ぶ物語―』（山川出版社、2013年）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業中の私語・スマホ・音楽などは、平常点から減点になります。また、座席指定の授業です。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション |
| 02 | 古代社会と日本神話 |
| 03 | 縄文～古墳時代―「桃太郎」と大和朝廷― |
| 04 | 飛鳥・奈良時代―「浦島太郎」と社会不安― |
| 05 | 平安時代―「かぐや姫」と貴族社会― |
| 06 | 鎌倉時代―「金太郎」と武士社会― |
| 07 | 南北朝・室町時代―「一寸法師」と応仁の乱― |
| 08 | 戦国時代―「猿カニ合戦」と報復― |
| 09 | 江戸時代①―動物話と江戸社会― |
| 10 | 江戸時代②―妖怪話と江戸社会― |
| 11 | 明治・大正時代―童謡と近代日本― |
| 12 | クリスマスの歴史について |
| 13 | 戦前・戦時中の社会―絵本と軍国主義― |
| 14 | 戦後の社会―詩と戦後復興― |
| 15 | 現代社会とメディア |
| 16 | 定期試験 |

2018年度シラバス

| 科目名:異文化理解 | 担当者:加藤　あや美 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
　この科目は桜花学「世界を知る」科目群に位置付けられている科目です。グローバル社会への理解を深めるという目標をもとに、異文化という観点からコミュニケーションの具体的な事例を取り上げ、異なる文化背景を持った人にどのように伝え、交わるか、また、どのように受け入れ、理解するのかについて考えていく。さらに、多文化共生社会に中で、いかに円滑に共存できるかについて考察する。

授業の到達目標
　異文化理解や異文化コミュニケーションの諸相に関連する文献を読み、それぞれにおける問題点を文化、言語の関連の枠組みでとらえ、考察を加えることを目指す。実際に異文化と接触した際に、学んだ知識をもとに適切に行動する力を身につける。また、異なる文化背景の人々を受け入れることができる素地を養う。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　日頃から新聞などに目を通し、国際的に問題となっている事柄に関心を持つようにしましょう。また、日常的に様々な人とのコミュニケーションも大切にし、人との関わりに高い意識を持つようにして下さい。さらに、授業内で紹介する異文化コミュニケーションの事例をもとに、自分の周りにある身近な事例をピックアップできるようにしておきましょう。Active Learning型の授業を実践するため、グループワークやディスカッションを取り入れていきます。

評価方法
授業への参加度　30%　小テスト・小レポート　30%　期末レポート　40%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 適宜、プリントを配布します。 | 授業中に紹介します。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ディスカッションを多く取り入れていくため、積極的な授業への参加を望みます。発表や授業レポートにおいて、自分の考えを明確に述べることができるよう努力しましょう。（オフィスアワー：火曜昼休み）

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション |
| 02 | 異文化コミュニケーション①　文化とは何か |
| 03 | 異文化コミュニケーション②　自文化への気づき |
| 04 | 異文化コミュニケーション③　様々な異文化接触 |
| 05 | 異文化コミュニケーション④　グループディスカッション |
| 06 | 異文化理解①　言語と文化の密接な関係 |
| 07 | 異文化理解②　異文化への言語的アプローチ |
| 08 | 異文化理解③　世界における言語教育の現状 |
| 09 | 異文化理解④　日本における言語政策 |
| 10 | 異文化理解⑤　日本における言語教育 |
| 11 | 多文化共生①　アジアにおける英語の役割 |
| 12 | 多文化共生②　多文化国家の現状 |
| 13 | 多文化共生③　多文化国家における言語政策 |
| 14 | 多文化共生④　多文化国家における言語教育 |
| 15 | 多文化共生⑤　多文化が共生するために |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:日本の文化 | 担当者:Martin Baildon | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:パソコンを持参すること | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>この講義では日本の文化について学びます。歴史や有名なお祭りなど現在の文化について学習していきます。この機会に一緒に日本の文化について知識を深めましょう。この科目は、桜花学の中の「世界を知る」の科目群に位置づけられている。 |
| 授業の到達目標<br>日本の歴史や現在の文化を知り、適切な表現で表すことができます。活発にディスカッションやプレゼンテーションに参加して自信を持って口頭で意見や知っていることを伝えてください。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修<br>授業のプレゼンテーションのために事前学修が必要です。配られたプリントや参考教材を必ず読んでください。分からない歴史や人物があれば、百科事典やウイキペディアなどで調べてください。 |
| 評価方法<br>小テスト40% 、プレゼンテーション & 感想 40%、積極性 20% |

| 教科書<br>授業で指示します。 | 参考図書<br>授業中に紹介します |
|---|---|

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>この講義では日本の文化について学習するチャンスです。一つの話題について深く知りたい場合や分からないことがあれば講師に直接に聞いてください。 |

| | |
|---|---|
| 01 | 講師自己紹介と講義内容の説明 |
| 02 | 日本人の由来　縄文時代から鎌倉時代時代まで |
| 03 | 江戸時代から第二次世界大戦の終わりまで |
| 04 | 日本の様々な民族（アイヌや琉球人など） |
| 05 | 日本のお祭り |
| 06 | 日本の演劇 |
| 07 | 現代の日本の文化（パチンコ、カラオケ、漫画など） |
| 08 | 日本語の特徴 |
| 09 | 授業１－８の復習 |
| 10 | 歴史的に有名な日本人 |
| 11 | 有名な作家 |
| 12 | 日本における教育 |
| 13 | 日本のお正月の文化 |
| 14 | 授業10-13の復習 |
| 15 | まとめ |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:国際関係論 | 担当者:髙橋　一郎 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
日常生活で当たり前で正しい(と思われる)事でも、他の国、他の地域に行けば逆に悪い事(と思われること)があります。世界には様々な文化、様々な社会が存在します。全く相反する異なる価値観が存在したとしても私たちは共存していかなければ行けません。そうした国際社会の現状とルールがどうなっているか、を様々な事例から勉強します。毎週最新のニュースを扱いながら、様々な今までの事例を考え、幅広い視野を身につけるようにします。映像と事例を多数示し授業を進めます。難しい論理よりも、様々な実例を見ながら考えながら、極力易しく授業を進めます。一般教養の基礎力アップも同時に目指して授業を進めます。

授業の到達目標
様々な異なった価値観を学びます。その中から自分の考え方、そして広義の意味では自分の生き方を考える機会となるように世の中の動きと今を生きている私たちを取り巻く国際・国内の社会情勢を同時進行的に学び社会に出てから通用する知識を身につけることを目標とします。保育学部の授業として、日本と海外の保育のあり方の違い、その違いとなっている考え方の根本、についてもケーススタディとして扱います。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
常に社会に目を向け、日々のニュースを新聞・テレビ・インターネット等で見る習慣を身につけるだけでなく、そこから見えてくるもの、内包しているものを見つける姿勢が期待されます。

評価方法
授業毎の平常点レポート40%　　期末試験　40%　　年末課題　20%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| | |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ノンフィクション分野の読書　時事を扱ったテレビ番組、などを通して自主的に学習することが望ましい。

| | |
|---|---|
| 01 | 授業概要　（以下の計画は国際状況に応じて講義の順序は変更の場合あり） |
| 02 | なぜ争い(戦争)が起きるのか？ |
| 03 | 国際社会におけるルール　～　価値観の違い |
| 04 | 条約とは　・20世紀映像の時代①（20世紀初頭） |
| 05 | 国際社会で求める共通性とは　・20世紀映像の時代②（第一次世界大戦） |
| 06 | クーデターとは |
| 07 | Protocol（プロトコール） |
| 08 | 20世紀映像の時代③（第二次世界大戦） |
| 09 | 国際援助の一例～日本の海外援助 |
| 10 | 国際社会における人的交流 |
| 11 | 国際機関はどのように機能しているのか |
| 12 | 20世紀映像の時代④（ベトナム戦争　地域紛争） |
| 13 | 最新国際時事分析① |
| 14 | 国際社会と難民　民族の自立 |
| 15 | 20世紀映像の時代⑤（植民地の自立） |
| 16 | 期末試験 |

2018年度シラバス

| 科目名:世界の宗教 | 担当者:成田　弘成 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:特になし | | 単位数 | 2 |
| | | 必須. 選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
この授業は桜花学の中の「世界を知る」科目群に属します。従って、この授業では、グローバリゼーションを理解するという目標の基に、世界の宗教的な事例を取り上げ、異なる文化を持った人がどのような宗教を信じているのか、あるいは文化を超えた宗教の力について学びます。また旅をして聖地を訪れる感覚で、多くの宗教的な世界遺産地域を紹介しながら、宗教的意義について考えていきます。さらに、グローバル時代の中で、宗教的に異なった文化背景を持った人々がいかに円滑に共存できるかについて一緒に考えていきましょう。

授業の到達目標
宗教の諸相に関連する文献(配布資料)を読み、また映像を通して世界の宗教遺産の現状と問題点を知り、宗教の多元的存在の意義を理解することを目指します。実際に旅先で異文化の宗教と接触した際に、学んだ知識をもとに適切に行動する力を身につけ、異なる宗教的文化背景の人々を受け入れることができる素地を養います。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日頃から新聞などに目を通し、国際的に問題となっている事柄に関心を持つようにしましょう。また、日常的に様々な人とのコミュニケーションも大切にして、人間の尊厳への高い意識を持つようにして下さい。特に授業準備としては、当日のテーマや地域の遺産地域について、情報を確認してください。また授業後は、配布された資料をよく熟知し、内容を整理して理解するようにしてください。理解度については、小テストなど自己確認してください。

評価方法
授業への参加態度30%　小テスト30%　期末レポート40%

| 教科書<br>特になし | 参考図書<br>その都度、資料を配布します。 |
|---|---|

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業に参加できない場合、その都度、教員に相談してください。担当教員の研究室は7号館3階。オフィスアワーは月曜日の昼休み12時30分から13時。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション　～宗教と旅(巡礼)～ |
| 02 | 聖地巡礼①　～四国及び熊野～ |
| 03 | 聖地巡礼②　～スペイン(サンティアゴ・デ・コンポステーラ)～ |
| 04 | 聖地巡礼③　～インド～ |
| 05 | 聖地巡礼④　～カンボジア(アンコールワット)～ |
| 06 | 聖地とシャーマニズム |
| 07 | 古代エジプトの宗教と世界遺産 |
| 08 | ギリシャ・ローマの宗教と世界遺産 |
| 09 | 中南米マヤ・アスティカの宗教と世界遺産 |
| 10 | キリスト教の宗教遺産1 |
| 11 | キリスト教の宗教遺産2 |
| 12 | イスラム教の宗教遺産 |
| 13 | 仏教の宗教遺産1　インド |
| 14 | 仏教の宗教遺産2　タイ |
| 15 | 儒教の宗教遺産 |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:スポーツ健康論 | 担当者:寺田　恭子 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
　講義形式を基本とする。「健康･運動に関するテーマ」についてのレクチャーを中心に受講する。(テーマの内容をまとめたスライドや資料を使用する)また、デモンストレーション･運動参加などを織り交ぜ学習する。

授業の到達目標
　現代生活において、「充実した生活を送ること」は「健康な生活」を獲得することが重要要素になっている。健康情報があふれている現代社会で「健康な生活」の獲得のために正しい知識を持つ必要がある。そして、 女性としてライフステージによる身体の変化を受け入れることは人生を豊かにするためにも重要である。本講座は『「女子力」を向上し人生を豊かに!』がサブテーマである。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　生活･ライフプランを振り返るテーマのレポート等を予定している。

評価方法
受講態度・提出課題(毎回&特別レポート)評価:40%筆記試験結果:60%以上を総合して評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 特になし。その都度プリントを配布する。 | 安部孝、琉子友男 編著:これからの健康とスポーツの科学 第4 版、講談社、2015.3 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
講義内では、みなさんの意見･体験などを発表することもあります、簡単な実技等を行うこともある。積極的に参加すること。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション・「健康概念」 |
| 02 | 生活習慣(喫煙・飲酒)と健康 |
| 03 | 体力・運動の種類 |
| 04 | 疲労・ストレスと概要 |
| 05 | 疲労・ストレスの回復方法(「休養・運動」) |
| 06 | 運動不足による健康への影響 |
| 07 | 肥満の成り立ち・改善① |
| 08 | 肥満の成り立ち・改善② |
| 09 | メタボリックシンドローム |
| 10 | 代謝機能・高血圧･脂質異常と運動･スポーツ |
| 11 | 女性とスポーツ(ライフサイクル・妊娠) |
| 12 | 女性とスポーツ(ライフサイクル・更年期・骨粗鬆症) |
| 13 | 環境と運動・スポーツ(暑熱環境・日焼け) |
| 14 | 環境と運動・スポーツ |
| 15 | ライフステージ別運動(発育) |
| 16 | まとめ・確認試験 |

2018年度シラバス

| 科目名:スポーツ健康論 | 担当者:木村 達志 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>健康や運動に関して講義形式で進めていきます。生涯に渡って健康を維持するためには、運動と栄養と休養が大切です。その中でも特に運動を中心として、疾病予防やストレスの軽減、性差やライフステージとの関連について学習します。 |
| 授業の到達目標<br>生涯に渡って充実した生活を送ることが出来るようにするため、巷にあふれている健康に関する情報の取捨選択する能力を身につける。その中でも、特に運動の効果について理解するとともに、自分のからだや健康管理について生理学的な知識を身につける。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 |
| 評価方法<br>授業への取り組み：40%、提出物：20%、期末試験40% |

| 教科書 | 参考図書<br>必要に応じてに案内します |
|---|---|

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>連絡手段は授業時に案内します |

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション・「健康概念」 |
| 02 | 生活習慣(喫煙・飲酒)と健康 |
| 03 | 体力・運動の種類 |
| 04 | 疲労・ストレスと概要 |
| 05 | 疲労・ストレスの回復方法 |
| 06 | 運動不足による健康への影響 |
| 07 | 肥満の成り立ち・改善① |
| 08 | 肥満の成り立ち・改善② |
| 09 | メタボリックシンドローム |
| 10 | 代謝機能・高血圧･脂質異常と運動･スポーツ |
| 11 | 女性とスポーツ(ライフサイクル・妊娠) |
| 12 | 女性とスポーツ(ライフサイクル・更年期・骨粗鬆症) |
| 13 | 環境と運動・スポーツ(暑熱環境・日焼け) |
| 14 | 環境と運動・スポーツ |
| 15 | ライフステージ別運動(発育) |
| 16 | まとめと期末試験 |

2018年度シラバス

| 科目名:コンピュータＩ | 担当者:鐘ヶ江　みづほ | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:毎回充電済みＰＣを持参すること | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
　コンピュータＩではパソコンの基本操作を学ぶ。Windows操作、メールの送受信、文書作成（Word）、表計算（Excel）、プレゼンテーション（PowerPoint）の基本操作を演習形式で学習する。

授業の到達目標
　学生生活および将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標とし、本講においては、パソコンの基本操作を習得することを目標とする。現在最も普及しているソフトの一つであるWord、PowerPointとExcelの基礎の習得を目指し、今後の学生生活においてコンピュータを活用できることはもちろん、保育の現場で使いこなしていけるための基礎を身につけることを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　情報検索、レポートの作成などを通じて、日常的に使ってなれることが、パソコンの使い方をマスターするための近道であるので、授業で学んだ技術は、様々な科目の学習活動等において、積極的に活用すること。また、この時期に日常的にタイピング練習を行っておくこと。moodleやメールにて指示があるので確認する。

評価方法
受講態度（４０％）、毎回の提出課題（３０％）、各評価課題（３０％）

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 日本語ワープロ検定　２・準２級　模擬問題集ＦＯＭ出版<br>情報モラル&情報セキュリティ＜改訂版＞ | 適宜授業内で紹介 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　初回に、クラス分けテストを行い、経験に合わせて指導を行う。毎回、充電済みのパソコンを持参すること。情報モラルは使う側の「モラルを守る姿勢」が重要です。ネットの活用には特に自覚が必要です。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション　（パソコンの仕様の確認、タイピング） |
| 02 | パソコンの基礎　パソコンの基本構成とIT活用のルール |
| 03 | インターネット　ブラウザの基本操作と情報モラル |
| 04 | Word基本１（基本的なビジネス文書） |
| 05 | Word基本２（表を含んだビジネス文書） |
| 06 | Word基本３（図や図形を含んだビジネス文書 |
| 07 | Word課題作成 |
| 08 | PowerPoint基本１（基本操作） |
| 09 | PowerPoint基本２（アニメーション） |
| 10 | PowerPoint課題作成 |
| 11 | PowerPoint課題発表 |
| 12 | Excel基本１（四則演算集計） |
| 13 | Excel基本２（オートサムボタン） |
| 14 | Excel基本３（グラフの基本操作） |
| 15 | Excel課題、まとめ |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:コンピュータⅠ | 担当者:鬼頭　恭子 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:毎回充電済みPCを持参すること | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
　コンピュータⅠでは、コンピュータの基本操作を学ぶ。コンピュータの基礎知識や情報モラルなどの知識の習得と、文書作成（Word）、表計算（Excel）、デジタルプレゼンテーション（PowerPoint)の基本操作を演習形式で学習する。

授業の到達目標
　学生生活および将来にわたってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標とし、本講においては、その基本操作を習得することを目標とする。現在もっとも普及しているMicrosoft Officeの 製品であるWord、Excel、PowerPoint の基礎の習得をめざし、今後の学生生活においてコンピュータを活用できることはもちろん、保育の現場で使いこなしていけるための基礎を身につけることを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
情報検索、レポートの作成などを通じて、日常的に使ってなれることが、コンピュータの使い方をマスターするための近道であるので、授業で学んだ技術は、様々な科目の学習活動等において、積極的に活用すること。授業内にわからないことは授業内で解決するよう心がけ、授業外では、復習課題を繰り返し練習すること。

評価方法
　受講態度（４０％）、毎回の提出課題（３０％）、各評価課題（３０％）

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 日本語ワープロ検定２・準2級模擬問題集、FOM出版　情報モラル&セキュリティ＜改訂版＞ | 適宜授業内で紹介 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日常的にタイピング練習を行っておくこと。moodleやメールにて指示があるので常時確認する。連絡手段のメールアドレスについては、授業内に開示する。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション（コンピュータの仕様の確認、タイピング） |
| 02 | コンピュータの基礎　コンピュータの基本構成とIT活用のルール |
| 03 | インターネット　ブラウザの基本操作と情報モラル |
| 04 | Word基本１（基本的なビジネス文書） |
| 05 | Word基本２（表を含んだビジネス文書） |
| 06 | Word基本３（図や図形を含んだビジネス文書） |
| 07 | Word課題 |
| 08 | PowerPoint基本１（基本操作） |
| 09 | PowerPoint基本２（アニメーション） |
| 10 | PowerPoint課題作成 |
| 11 | PowerPoint課題発表 |
| 12 | Excel基本１（Excelのルールと四則演算） |
| 13 | Excel基本２（オートサムボタン） |
| 14 | Excel基本３（グラフの基本操作） |
| 15 | Excel課題、まとめ |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:コンピュータⅠ | 担当者:佐久間　潔 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
1.授業内容　セキュリティとPCの基本操作を学ぶ。特にMicrosoft Office製品（Word,Excel,PowerPoint）2.授業方法　WindowsPCを使用し、演習授業を通じてPCを活用するスキルを習得する3.他の授業との関係　すべての授業科目でのレポート作成・レポート提出に活用できるようにする

授業の到達目標
学生にとって身近な素材を使って文書作成、表計算、グラフ作成、プレゼンテーションのためのスライド作成など、社会現場で必要な実践力を養うとともに、情報社会でのリスクに対応できるスキルを身につける。1.インターネットを含むネットワーク社会でリスク感性を醸成し、多くのツールの効率的な活用ができる。パワーポイントを使用した人前でのプレゼンテーションができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日常の生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。Ohka Moodleを利用して予習・復習に努める毎回の授業でわからないことはその日に解決する。

評価方法
Office製品（Word,Excel,PowerPoint）の各課題・試験の評価40%、その他の課題・試験30%　平常点30%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 日本語ワープロ検定　２・準２級　模擬問題集 | ひと目でわかるOffice2016 for Mac　日経BP社 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡用メールアドレスは、sakuma@nagoyacollege.ac.jpです。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション　　（パソコン仕様確認、ブラインドタッチタイピング） |
| 02 | パソコンの基礎　パソコンの基本構成と基本操作　　（Mac Book Air） |
| 03 | インターネット　ブラウザの基本操作（サファリとグーグルクロム） |
| 04 | WORD基本１（WORDの基本操作） |
| 05 | WORD基本2（ビジネス文章の基本） |
| 06 | WORD基本3（図・表・図形のあるビジネス文章） |
| 07 | WORD課題 |
| 08 | Power Point基本１（Power Pointの基本操作） |
| 09 | Power Point基本2（アニメーション） |
| 10 | Power Point課題の作成 |
| 11 | Power Point課題の発表 |
| 12 | 表作成 基本１（基本構成と） |
| 13 | 表作成 基本2（Σボタン） |
| 14 | 表作成 基本3（関数の基礎） |
| 15 | 表作成（グラフ作成の基本操作） |
| 16 | 総合課題または試験 |

2018年度シラバス

| 科目名:コンピュータⅡ | 担当者:鐘ヶ江　みづほ,鬼頭　恭子,佐久間　潔 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:毎回充電済みＰＣを持参すること | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
　コンピュータⅠを受けてWord,Excel,PowerPointの基本操作から活用を目指す。具体的には、園便りの作成など実習を通して文書作成技術やプレゼンテーション技術を身につける。Excelでは、レポートや論文作成時に必要となる表を活用する力を身につける。

授業の到達目標
　学生生活および将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標とし、本講においては、パソコンの基本操作を習得しさらに応用できる力を身につけることを目標とする。コンピュータⅠをうけて、
Word,Excel,PowerPointの基礎の定着を目指すとともに、応用技術も身につける。今後の学生生活、また、将来保育の現場で使いこなしていけるための基礎を身につけることを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　日常の生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。デジタルプレゼンテーションにおいては、色の配置や表現方法などに、表計算においては、データの流れに着目してみると良い。その都度moodleやメールにて指示するので確認を怠らないこと。タイピング練習は、日常的に行っておく。

評価方法
受講態度（４０％）、毎回の提出課題（３０％）、各評価課題（３０％）

| 教科書<br>前期使用のもの、適宜資料配布 | 参考図書<br>適宜授業内で紹介 |
|---|---|

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
毎回、充電済みのパソコンを持参すること。情報モラルは使う側の「モラルを守る姿勢」が重要です。ネットの活用には特に自覚が必要です。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション　（WORDビジネス文書復習） |
| 02 | Word応用課題１（ビジネス文書応用） |
| 03 | Word応用課題２（デザイン文書・チラシ作成） |
| 04 | Word応用課題３（デザイン文書・おたより作成） |
| 05 | Word応用課題４（デザイン文書・おたより作成） |
| 06 | Excel応用課題１（関数１、グラフ１） |
| 07 | Excel応用課題２（関数２、グラフ２） |
| 08 | Excel応用課題３（関数３、グラフ３） |
| 09 | Excel応用課題４（データベース機能などの便利な機能の活用） |
| 10 | 総合課題（ExcelとWordとの連携） |
| 11 | PowerPoint応用課題１（テーマ決定、骨格作成） |
| 12 | PowerPoint応用課題２（詳細部作成） |
| 13 | PowerPoint応用課題３（発表準備） |
| 14 | PowerPoint応用課題４（発表） |
| 15 | PowerPoint応用課題５（発表） |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:コンピュータⅡ | 担当者:鬼頭　恭子 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:毎回充電済みPCを持参すること | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
コンピュータⅠを受けてWord,Excel,PowerPointの基本操作から活用をめざす。具体的には、園便りの作成など演習を通して文書作成技術やプレゼンテーション技術を身につける。Excelでは、レポートや論文作成時に必要となる表を活用する力を身につける。

授業の到達目標
学生生活および将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標とし、本講においては、コンピュータの基本操作を習得しさらに応用できる力を身につけることを目標とする。コンピュータⅠをうけて、
Word,Excel,PowerPointの基礎の定着をめざすとともに、応用技術も身につける。今後の学生生活、また、将来保育の現場で使いこなしていけるための基礎を身につけることを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　日常の生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。デジタルプレゼンテーションにおいては、色の配置や表現方法などに、表計算においては、データの流れに着目してみると良い。　授業内にわからないことはその都度授業中に解決することを心がけ、授業後に復習課題を繰り返し練習する。

評価方法
受講態度（４０％）、毎回の提出課題（３０％）、各評価課題（３０％）

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 前期の教科書、追加の教科書についてはオリエンテーション時に指示する | 都度授業内に紹介する |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
その都度moodleやメールにて指示するので確認を怠らないこと。タイピング練習は、日常的に行っておく。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション（WORDビジネス文書復習） |
| 02 | Word応用課題１（ビジネス文書応用） |
| 03 | Word応用課題２（デザイン文書・チラシ作成） |
| 04 | Word応用課題３（デザイン文書・おたより作成） |
| 05 | Word応用課題４（デザイン文書・おたより作成） |
| 06 | Excel応用課題１（関数１、グラフ１） |
| 07 | Excel応用課題２（関数２、グラフ２） |
| 08 | Excel応用課題３（関数３、グラフ３） |
| 09 | Excel応用課題４（データベース機能などの便利な機能の活用） |
| 10 | 総合課題（ExcelとWordとの連携） |
| 11 | PowerPoint応用課題１（テーマ決定、骨格作成） |
| 12 | PowerPoint応用課題２（詳細部作成） |
| 13 | PowerPoint応用課題３（発表準備） |
| 14 | PowerPoint応用課題４（発表） |
| 15 | PowerPoint応用課題５（発表） |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:コンピュータⅡ | 担当者:佐久間　潔 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:前期のコンピュータⅠを受講していることが望ましい | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
1.授業内容　セキュリティとPCの基本操作を学ぶ。特にMicrosoft Office製品（Word,Excel,PowerPoint）2.授業方法　WindowsPCを使用し、演習授業を通じてPCを活用するスキルを習得する3.他の授業との関係　すべての授業科目でのレポート作成・レポート提出に活用できるようにする

授業の到達目標
前期で学習したコンピュータⅠで身につけたスキルを踏まえてさらに利活用するスキルを高める。1.Microsoft Office製品（Word,Excel,PowerPoint）の応用操作ができる。オフィス製品を利用して総合的なビジネス文書の効率的な作成や計算処理、プレゼン準備ができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日常生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。毎回の授業でわからないことはその日に解決するOhka Moodle に登録された予習用のビデオファイルを必ず見ること

評価方法
Office製品（Word,Excel,PowerPoint）の各課題・試験の評価40%、その他の課題・試験30%　平常点30%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 前期使用のもの、適宜資料配布 | ひと目でわかるOffice2016 for Mac　日経BP社 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡用メールアドレスは、sakuma@nagoyacollege.ac.jpです。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション（前期の復習） |
| 02 | WORD応用１（WORDの応用操作） |
| 03 | WORD応用2（デザイン文章の作成） |
| 04 | WORD応用3（デザイン文章　ちらし・パンフレット） |
| 05 | WORD課題 |
| 06 | 表作成 応用１（関数１） |
| 07 | 表作成 応用2（関数２） |
| 08 | 表作成 応用3（関数３） |
| 09 | 表作成 応用4（便利な応用機能） |
| 10 | 表作成（グラフ作成の応用） |
| 11 | Office製品の連携（WORD・EXCEL・Power Point） |
| 12 | Power Point応用１（Power Pointの応用操作） |
| 13 | Power Point応用2（アニメーション） |
| 14 | Power Point課題の作成 |
| 15 | Power Point課題の発表 |
| 16 | 総合課題または試験 |

2018年度シラバス

| 科目名:総合英語Ⅰ | 担当者:内田　政一 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。学生にとって身近なトピックをテーマとするテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をペア・グループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用することで、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、発展的なトレーニングにより、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につける。また、Phrase Learningを通して、日常的な会話に必要となる英語表現の習得を目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業中に調べた単語は各自でまとめ、日々の英語学習に役立てるようにして下さい。また、毎回の授業の復習を必ず行い、次回の授業に臨むようにしましょう。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 熊澤孝昭他 AMBITIONS Elementary (金星堂)　内田政一他 Active Communication with Phrases (南雲堂) | 授業内で紹介します。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書及び辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。（オフィスアワー：木曜昼休み)

| | |
|---|---|
| 01 | Introduction |
| 02 | Unit 1：Cross-Cultural Understanding (Listening)/Phrase Learning　(Unit 1 Phrases) |
| 03 | Unit 1：Cross-Cultural Understanding (Reading) /Phrase Learning　(Unit 1 Exercises) |
| 04 | Unit 2：Foods (Listening)/Phrase Learning　(Unit 2 Phrases) |
| 05 | Unit 2：Foods (Reading)/Phrase Learning　(Unit 2 Exercises) |
| 06 | Unit 3：Foreign Language Learning (Listening)/Phrase Learning　(Unit 3 Phrases) |
| 07 | Unit 3：Foreign Language Learning (Reading)/Phrase Learning　(Unit 3 Exercises) |
| 08 | Unit 4：Sports (Listening) /Phrase Learning　(Unit 4 Phrases) |
| 09 | Unit 4：Sports (Reading)/Phrase Learning　(Unit 4 Exercises) |
| 10 | Unit 5：Fashion (Listening)/Phrase Learning　(Unit 5 Phrases) |
| 11 | Unit 5：Fashion (Reading)/Phrase Learning　(Unit 5 Exercises) |
| 12 | Unit 6：Living Things (Listening)/Phrase Learning　(Phrases復習①) |
| 13 | Unit 6：Living Things (Reading)/Phrase Learning　(Phrases復習②) |
| 14 | Unit 7：Art (Listening)/Phrase Learning　(まとめ①) |
| 15 | Unit 7：Art (Reading)/Phrase Learning　(まとめ②) |
| 16 | Final Exam |

2018年度シラバス

| 科目名:総合英語Ⅰ | 担当者:加藤　あや美 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。学生にとって身近なテーマを取り上げているテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をペア・グループ等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用することで、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、発展的なトレーニングにより、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につける。また、Phrase Learningを通して、日常的な会話に必要となる英語表現の習得を目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業中に調べた単語は各自でまとめ、日々の英語学習に役立てるようにして下さい。また、毎回の授業の復習を必ず行い、次回の授業に臨むようにしましょう。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 熊澤孝昭他 AMBITIONS Elementary (金星堂) 内田政一他 Active Communication with Phrases (南雲堂) | 授業内で紹介します。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書及び辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。（オフィスアワー：火曜昼休み)

| | |
|---|---|
| 01 | Introduction |
| 02 | Unit 1：Cross-Cultural Understanding (Listening)/Phrase Learning　(Unit 1 Phrases) |
| 03 | Unit 1：Cross-Cultural Understanding (Reading) /Phrase Learning　(Unit 1 Exercises) |
| 04 | Unit 2：Foods (Listening)/Phrase Learning　(Unit 2 Phrases) |
| 05 | Unit 2：Foods (Reading)/Phrase Learning　(Unit 2 Exercises) |
| 06 | Unit 3：Foreign Language Learning (Listening)/Phrase Learning　(Unit 3 Phrases) |
| 07 | Unit 3：Foreign Language Learning (Reading)/Phrase Learning　(Unit 3 Exercises) |
| 08 | Unit 4：Sports (Listening) /Phrase Learning　(Unit 4 Phrases) |
| 09 | Unit 4：Sports (Reading)/Phrase Learning　(Unit 4 Exercises) |
| 10 | Unit 5：Fashion (Listening)/Phrase Learning　(Unit 5 Phrases) |
| 11 | Unit 5：Fashion (Reading)/Phrase Learning　(Unit 5 Exercises) |
| 12 | Unit 6：Living Things (Listening)/Phrase Learning　(Phrases復習①) |
| 13 | Unit 6：Living Things (Reading)/Phrase Learning　(Phrases復習②) |
| 14 | Unit 7：Art (Listening)/Phrase Learning　(まとめ①) |
| 15 | Unit 7：Art (Reading)/Phrase Learning　(まとめ②) |
| 16 | Final Exam |

2018年度シラバス

| 科目名:総合英語Ⅰ | 担当者:石川　香代子 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。異文化体験をテーマとするテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をグループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用することで、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、発展的なトレーニングにより、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につける。また、Phrase Learningを通して、日常的に必要となる英語表現の習得を目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業後の復習（筆記・音読）や自主的な練習は、各自で行い授業に臨むようにしましょう。また、教科書以外にも保育英検等の参考資料や、英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日常から英語に触れ合うようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 表谷純子他　English Beams（金星堂）　内田政一他　Active Communication with Phrases（南雲堂） | 授業内で紹介します。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書を毎回必ず持ってくること。欠席した際のフォローアップ（授業の進度・配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。授業担当者への連絡方法は、担当者から授業内でお知らせします。

| | |
|---|---|
| 01 | Introduction |
| 02 | Unit 1：Were You Texting While Walking? / Phrase Learning (Unit 1 Phrases) |
| 03 | Unit 1：パラグラフの構造① / Phrase Learning (Unit 1 Exercises) |
| 04 | Unit 2：Do You Work Part-time? / Phrase Learning (Unit 2 Phrases) |
| 05 | Unit 2：パラグラフの構造② / Phrase Learning (Unit 2 Exercises) |
| 06 | Unit 3：He Has a Great Smile, and He's Rich! / Phrase Learning (Unit 3 Phrases) |
| 07 | Unit 3：パラグラフの構造③ / Phrase Learning (Unit 3 Exercises) |
| 08 | Unit 4：Did You Enjoy Playing Basketball? / Phrase Learning (Unit 4 Phrases) |
| 09 | Unit 4：2つの語・句・節をつなぐ接続詞 / Phrase Learning (Unit 4 Exercises) |
| 10 | Unit 5：Manners: Be a Good Guest! / Phrase Learning (Unit 5 Phrases) |
| 11 | Unit 5：文の構成 / Phrase Learning (Unit 5 Exercises) |
| 12 | Unit 6：Call Me When You Get There / Phrase Learning (Phrases復習①) |
| 13 | Unit 6：2つの事柄を並べて説明する / Phrase Learning (Phrases復習②) |
| 14 | Unit 7：Dogs Are So Much Better / Phrase Learning (まとめ①) |
| 15 | Unit 7：文頭でないようを展開する副詞 / Phrase Learning (まとめ①) |
| 16 | 定期テスト |

# 2018年度シラバス

| 科目名:総合英語Ⅰ | 担当者:小野　克志 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。異文化体験をテーマとするテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をグループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用することで、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、発展的なトレーニングにより、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につける。また、Phrase Learningを通して、日常的に必要となる英語表現の習得を目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業後の復習（筆記・音読）や自主的な練習は、各自で行い授業に臨むようにしましょう。また、教科書以外にも保育英検等の参考資料や、英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日常から英語に触れ合うようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 表谷純子他　English Beams（金星堂）　内田政一他　Active Communication with Phrases（南雲堂） | 授業内で紹介します。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書を毎回必ず持ってくること。欠席した際のフォローアップ（授業の進度・配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいて下さい。授業担当者への連絡方法は、担当者から授業内でお知らせします。

| | |
|---|---|
| 01 | Introduction |
| 02 | Unit 1：Were You Texting While Walking? / Phrase Learning (Unit 1 Phrases) |
| 03 | Unit 1：パラグラフの構造① / Phrase Learning (Unit 1 Exercises) |
| 04 | Unit 2：Do You Work Part-time? / Phrase Learning (Unit 2 Phrases) |
| 05 | Unit 2：パラグラフの構造② / Phrase Learning (Unit 2 Exercises) |
| 06 | Unit 3：He Has a Great Smile, and He's Rich! / Phrase Learning (Unit 3 Phrases) |
| 07 | Unit 3：パラグラフの構造③ / Phrase Learning (Unit 3 Exercises) |
| 08 | Unit 4：Did You Enjoy Playing Basketball? / Phrase Learning (Unit 4 Phrases) |
| 09 | Unit 4：2つの語・句・節をつなぐ接続詞 / Phrase Learning (Unit 4 Exercises) |
| 10 | Unit 5：Manners: Be a Good Guest! / Phrase Learning (Unit 5 Phrases) |
| 11 | Unit 5：文の構成 / Phrase Learning (Unit 5 Exercises) |
| 12 | Unit 6：Call Me When You Get There / Phrase Learning (Phrases復習①) |
| 13 | Unit 6：2つの事柄を並べて説明する / Phrase Learning (Phrases復習②) |
| 14 | Unit 7：Dogs Are So Much Better / Phrase Learning (まとめ①) |
| 15 | Unit 7：文頭でないようを展開する副詞 / Phrase Learning (まとめ①) |
| 16 | 定期テスト |

2018年度シラバス

| 科目名:総合英語Ⅱ | 担当者:内田　政一 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。学生に身近なトピックをテーマとするテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をペア・グループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用することで、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、発展的なトレーニングにより、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につける。また、Phrase Learningを通して、日常的な会話に必要となる英語表現の習得を目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業中に調べた単語は各自でまとめ、日々の英語学習に役立てるようにして下さい。また、毎回の授業の復習を必ず行い、次回の授業に臨むようにしましょう。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 熊澤孝昭他　AMBITIONS Elementary (金星堂) 内田政一他　Active Communication with Phrases (南雲堂) | 授業内で紹介します。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には、教科書及び辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。（オフィスアワー：木曜昼休み）

| | |
|---|---|
| 01 | Introduction |
| 02 | Unit 8 : Global Issues (Listening) / Phrase Learning (Unit 6 Phrases) |
| 03 | Unit 8 : Global Issues (Reading) / Phrase Learning (Unit 6 Exercises) |
| 04 | Unit 9 : Japanese Culture (Listening) / Phrase Learning (Unit 7 Phrases) |
| 05 | Unit 9 : Japanese Culture (Reading) / Phrase Learning (Unit 7 Exercises) |
| 06 | Unit 10 : Human Rights (Listening) / Phrase Learning (Unit 8 Phrases) |
| 07 | Unit 10 : Human Rights (Reading) / Phrase Learning (Unit 8 Exercises) |
| 08 | Unit 11 : Health & Medical Issues (Listening) / Phrase Learning (Unit 9 Phrases) |
| 09 | Unit 11 : Health & Medical Issues (Reading) / Phrase Learning (Unit 9 Exercises) |
| 10 | Unit 12 : Environmental Issues (Listening) / Phrase Learning (Unit 10 Phrases) |
| 11 | Unit 12 : Environmental Issues (Reading) / Phrase Learning (Unit 10 Exercises) |
| 12 | Unit 13 : Economy & Industry (Listening) / Phrase Learning (Phrases復習①) |
| 13 | Unit 13 : Economy & Industry (Reading) / Phrase Learning (Phrases復習②) |
| 14 | Unit 14 : Legal Issues (Listening) / Phrase Learning (まとめ①) |
| 15 | Unit 14 : Legal Issues (Reading) / Phrase Learning (まとめ②) |
| 16 | Final Exam |

2018年度シラバス

| 科目名:総合英語Ⅱ | 担当者:加藤　あや美 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。学生にとって身近なトピックをテーマとするテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をペア・グループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用することで、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、発展的なトレーニングにより、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につける。また、Phrase Learningを通して、日常的な会話に必要となる英語表現の習得を目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業中に調べた単語は各自でまとめ、日々の英語学習に役立てるようにして下さい。また、毎回の授業の復習を必ず行い、次回の授業に臨むようにしましょう。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 熊澤孝昭他　AMBITIONS Elementary (金星堂) 内田政一他　Active Communication with Phrases (南雲堂) | 授業内で紹介します。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には、教科書及び辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。（オフィスアワー：火曜昼休み）

| | |
|---|---|
| 01 | Introduction |
| 02 | Unit 8 : Global Issues (Listening) / Phrase Learning (Unit 6 Phrases) |
| 03 | Unit 8 : Global Issues (Reading) / Phrase Learning (Unit 6 Exercises) |
| 04 | Unit 9 : Japanese Culture (Listening) / Phrase Learning (Unit 7 Phrases) |
| 05 | Unit 9 : Japanese Culture (Reading) / Phrase Learning (Unit 7 Exercises) |
| 06 | Unit 10 : Human Rights (Listening) / Phrase Learning (Unit 8 Phrases) |
| 07 | Unit 10 : Human Rights (Reading) / Phrase Learning (Unit 8 Exercises) |
| 08 | Unit 11 : Health & Medical Issues (Listening) / Phrase Learning (Unit 9 Phrases) |
| 09 | Unit 11 : Health & Medical Issues (Reading) / Phrase Learning (Unit 9 Exercises) |
| 10 | Unit 12 : Environmental Issues (Listening) / Phrase Learning (Unit 10 Phrases) |
| 11 | Unit 12 : Environmental Issues (Reading) / Phrase Learning (Unit 10 Exercises) |
| 12 | Unit 13 : Economy & Industry (Listening) / Phrase Learning (Phrases復習①) |
| 13 | Unit 13 : Economy & Industry (Reading) / Phrase Learning (Phrases復習②) |
| 14 | Unit 14 : Legal Issues (Listening) / Phrase Learning (まとめ①) |
| 15 | Unit 14 : Legal Issues (Reading) / Phrase Learning (まとめ②) |
| 16 | Final Exam |

2018年度シラバス

| 科目名:総合英語Ⅱ | 担当者:石川　香代子 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須. 選択 | 必須 |

| 授業概要と方法 | |
|---|---|
| 授業の到達目標 | |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 | |
| 評価方法 | |
| 教科書 | 参考図書 |
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段) | |

| | |
|---|---|
| 01 | |
| 02 | |
| 03 | |
| 04 | |
| 05 | |
| 06 | |
| 07 | |
| 08 | |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

| 科目名:総合英語Ⅱ | 担当者:小野　克志 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。異文化体験をテーマとするテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をグループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用することで、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、発展的なトレーニングにより、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につける。また、Phrase Learningを通して、日常的に必要となる英語表現の習得を目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業後の復習（筆記・音読）や自主的な練習は、各自で行い授業に臨むようにしましょう。また、教科書以外にも保育英検等の参考資料や、英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日常から英語に触れ合うようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 表谷純子他　English Beams（金星堂）内田政一他　Active Communication with Phrases（南雲堂） | 授業内で紹介します。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度・配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。授業担当者への連絡方法は、授業内でお知らせします。

| | |
|---|---|
| 01 | Introduction |
| 02 | Unit 8：You Could Have Pool Parties! / Phrase Learning (Unit 6 Phrases) |
| 03 | Unit 8：理由と結果をつなぐ接続詞 / Phrase Learning (Unit 6 Exercises) |
| 04 | Unit 9：We Are Going on a Cruise! / Phrase Learning (Unit 7 Phrases) |
| 05 | Unit 9：未来を表す表現 / Phrase Learning (Unit 7 Exercises) |
| 06 | Unit 10：Have You Ever Volunteered Before? / Phrase Learning (Unit 8 Phrases) |
| 07 | Unit 10：現在完了形の4つの用法、コンマの使い方 / Phrase Learning (Unit 8 Exercises) |
| 08 | Unit 11：Think Before You Post! / Phrase Learning (Unit 9 Phrases) |
| 09 | Unit 11：例を挙げて主題を展開する / Phrase Learning (Unit 9 Exercises) |
| 10 | Unit 12：You Lied to Her! / Phrase Learning (Unit 10 Phrases) |
| 11 | Unit 12：Eメールの構成 / Phrase Learning (Unit 10 Exercises) |
| 12 | Unit 13：Are You Sleeping Well? / Phrase Learning (Phrases復習①) |
| 13 | Unit 13：パラグラフの構造④ / Phrase Learning (Phrases復習②) |
| 14 | Unit 14：Why Do You Want to Work Here? / Phrase Learning (まとめ①) |
| 15 | Unit 14：文書の書式設定 / Phrase Learning (まとめ①) |
| 16 | 定期テスト |

2018年度シラバス

| 科目名:ポルトガル語と文化Ⅰ | 担当者:アントゥネス 富松 エミ | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
講義形式と、グループを作ってディスカッションをして発表し合う

授業の到達目標
ブラジル・ポルトガル語の基礎段階を総合的に学習します。発音、挨拶表現、文法等、基礎的能力を養成します。ブラジルの文化・歴史について、又、日本の幼稚園・保育園、学校現場でブラジル人園児児童生徒と接する際に必要な言葉等についても言及します。（音楽、映画、ブラジルの遊び、幼稚園・学校の様子、人の生き方などを実物や映像を使って紹介します）

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
人数的に無理だと思うので予定していないが、状況が許せば、ブラジル料理の店などを紹介したい

評価方法
出席・.授業参加度・意欲・関心・提出物・小テスト・期末試験

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| ブラジルを発見-ブラジル・ポルトガル語入門　兼松シルビア典子著　同学社（必修）学生の携帯電話のアプリケーション（辞書）の使用も可 | |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ポルトガル語はブラジル人にとってもとても難しいので、テキストは簡単なものを選びました。それでも日本人には難しいと思いますが、がんばって楽しい授業をするので一緒にがんばりましょう。　毎回、教科書の日本語訳を予習してきてください。

| | |
|---|---|
| 01 | ポルトガル語のこととブラジルのこと |
| 02 | ポルトガル語の文字と発音１ |
| 03 | ポルトガル語の文字と発音練習問題 |
| 04 | 挨拶と簡単な日常会話１ |
| 05 | 挨拶と簡単な日常会話２ |
| 06 | 名詞の性と数 |
| 07 | 否定文と疑問文 |
| 08 | ブラジルと日本の違い |
| 09 | ４～７の練習問題とInternacional Day準備 |
| 10 | ＳＥＲ動詞１とInternacional Day準備 |
| 11 | ＳＥＲ動詞2 とInternacional Day準備 |
| 12 | 形容詞とInternacional Day準備 |
| 13 | Internacional Day |
| 14 | 教室でInternacional Dayのポスターの発表とレポート提出 |
| 15 | ブラジルの食文化とブラジルの料理作り |
| 16 | |

2018年度シラバス

| 科目名:ポルトガル語と文化Ⅱ | 担当者:アントゥネス 富松 エミ | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須. 選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
講義形式と、グループを作ってディスカッションをして発表し合う

授業の到達目標
ブラジル・ポルトガル語の基礎段階を総合的に学習します。発音、挨拶表現、文法等、基礎的能力を養成します。ブラジルの文化・歴史について、又、日本の幼稚園・保育園、学校現場でブラジル人園児児童生徒と接する際に必要な言葉等についても言及します。（音楽、映画、ブラジルの遊び、幼稚園・学校の様子、人の生き方などを実物や映像を使って紹介します）

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
人数的に無理だと思うので予定していないが、状況が許せば、ブラジル料理の店などを紹介したい

評価方法
出席・. 授業参加度・意欲・関心・提出物・期末試験

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| ブラジルを発見-ブラジル・ポルトガル語入門　兼松シルビア典子著　同学社（必修）学生の携帯電話のアプリケーション（辞書）の使用も可 | |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ポルトガル語はブラジル人にとってもとても難しいので、テキストは簡単なものを選びました。それでも日本人には難しいと思いますが、がんばって楽しい授業をするので一緒にがんばりましょう。　毎回、教科書の日本語訳を予習してきてください。

| | |
|---|---|
| 01 | 前期のおさらい |
| 02 | 所有詞と練習問題 |
| 03 | 命令形と指示詞 |
| 04 | ＥＳＴＡＲ動詞 |
| 05 | 17～18の練習問題と会話の練習 |
| 06 | グループで会話作り |
| 07 | ＱＵＥＲＥＲ動詞と数詞と会話の練習 |
| 08 | 会話の発表・ＳＥＲとＥＳＴＡＲの違い |
| 09 | 場所の副詞と時間の言い方 |
| 10 | 20～22の練習問題と会話の練習 |
| 11 | ＴＥＲ動詞・ブラジルについてのグループ調べ |
| 12 | ＰＯＤＥＲ動詞・ブラジルについてのグループ調べ |
| 13 | ブラジルについてのグループ発表 |
| 14 | ブラジルのお菓子作り |
| 15 | 会話のテスト |
| 16 | |

# 2018年度シラバス

| 科目名:スペイン語と文化Ⅰ | 担当者:ﾛﾝｾﾛｽ　ﾛｻﾘｵ | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
スペイン語と文化Iは1年生の選択科目で、スペイン語の基礎とスペイン語圏の文化を勉強します。初めてスペイン語を勉強する学生を対象とします。また、インターナショナル・デイには、グループで取り組んだ文化学習内容を発表します。このコースは、スペイン語での会話になれること、簡単な表現を使って、色々なシチュエーションにおけるスペイン語を勉強します。個人又はグループで実際的なコミュニケーションの練習をするので授業の中での学生の積極的な参加を期待します。

授業の到達目標
このコースの修了時に、学生たちは次の能力を持つことが期待される：1. アルファベット、数詞を習得し簡単な単語を使った会話ができる。2. Ser, Estar 動詞を使った質問文、解答文を作ることができる。3. 学んだ知識を使って先生やクラスメートと簡単なコミュニケーションができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
予習より復習に力を入れ、新しく覚えた単語を毎回発音しながら覚える。必要時間1時間30分～2時間。

評価方法
最終評価は、次の要素を満たす必要がある。1. 単語、会話小テスト　25%2. 授業態度、提出物　25%3. 確認テスト 2回　50%　合計　100%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| ¡Hola! ¿Qué tal? | El Español y YO |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業の予習・復習、　宿題の提出、授業中の積極的な発言を期待します。このコースに関する質問、不安などがある者は授業者ロサリオ・ロンセロスにEメールでコンタクトをとること。 アドレス：rosariohilario@hotmail.com

| | |
|---|---|
| 01 | ガイダンス、資料の配布、自己紹介、 アルファベットの歌 |
| 02 | 第１課　 挨拶の練習、 アルファベット |
| 03 | 第１課　 発音練習 、スペルの練習 |
| 04 | 名詞の性と数 、冠詞、冠詞形容詞 |
| 05 | 第2課　 単語小テスト 、 数詞<br>※ インターナショナル・デイの準備（文化学習）　※ ペルー民族舞踊の紹介と練習。(ダンス) |
| 06 | 5課　 動詞 ser |
| 07 | 第5課　 動詞serの使い方、 職業、 特徴や性質を表わす形容詞 |
| 08 | 確認テスト（１）<br>※ インターナショナル・デイの準備（文化学修）　※ スペイン語の歌の紹介と練習 |
| 09 | 第5課　 動詞serの使い方、国名・国籍 |
| 10 | 第6課　 曜日・月・時間 |
| 11 | 第6 課　 指示形容詞、 会話練習 |
| 12 | インターナショナル・デイ　※文化体験 |
| 13 | 第7課　 動詞estar 、場所を表す前置詞 |
| 14 | 第7課　 動詞haber (hay)　※授業評価アンケート |
| 15 | 第7 課　 総復習とまとめ、確認テスト (2) |
| 16 | なし |

# 2018年度シラバス

| 科目名:スペイン語と文化Ⅱ | 担当者:ﾛﾝｾﾛｽ　ﾛｻﾘｵ | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
スペイン語と文化IIは1年生の選択科目で、スペイン語と文化Ｉの続きで、スペイン語の基礎とスペイン語圏の文化を勉強し、入門を終えた学生を対象とします。また、インターナショナル・デイには、グループで取り組んだ文化学習内容を発表します。このコースは、現在形の動詞で簡単な表現を使って、スペイン語でのコミュニケーションができるように計画されています。個人又はグループで実用的なコミュニケーションの練習をして実践的に学んでいきます。

授業の到達目標
このコースの修了時に、学生たちは次の能力を持つことが期待される：1. 新しい単語を使って簡単な会話の練習をしながら、スペイン語の知識を増やす。2. 現在形動詞の規則動詞、不規則動詞の活用を学び、小文章を書くこと、読むことができる。3. 学んだ知識を使って先生やクラスメートと簡単なコミュニケーションができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
予習より復習に力を入れ、新しく覚えた単語を毎回発音しながら覚える。必要時間1時間30分～2時間。

評価方法
最終評価は、次の要素を満たす必要がある。1. 単語、会話小テスト　25%2. 授業態度、提出物　25%3. 確認テスト 2回　50%　合計　100%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| ¡Hola! ¿Qué tal? | El Español y YO |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業の予習・復習、宿題の提出、授業中の積極的な発言を期待します。このコースに関する質問、不安などがある者は授業者ロサリオ・ロンセロスにEメールでコンタクトをとること。アドレス：rosariohilario@hotmail.com

| | |
|---|---|
| 01 | ガイダンス、自己紹介、スペイン語Iの復習 |
| 02 | 第3課　主格人称代名詞、規則動詞の活用　～ar |
| 03 | 第3課　規則動詞の活用　～er,　～ir |
| 04 | 第3 課　疑問文 ：¿Qué..？, ¿Cómo..？, ¿Dónde..？, 会話練習、　単語小テスト |
| 05 | 第4課　不規則動詞の活用　～ar, ～er,　～ir |
| 06 | 第4課　前置詞 (a, de, con) 、疑問詞　¿A quién..？, ¿De dónde..？, ¿Con quién..? 会話練習 |
| 07 | 確認テスト（1）　※ ペルーの昔の子供の遊びの紹介(ゲーム)。 |
| 08 | 第8 課　動詞 querer の活用 |
| 09 | 動詞 querer の使い方、　会話練習 |
| 10 | 第9 課　動詞 poder の活用 |
| 11 | 第9 課　動詞 poder の使い方、　会話練習 |
| 12 | ペルーの食文化体験かスペイン語の映画の紹介。　※文化体験 |
| 13 | 第10 課　動詞 tener の活用、動詞 tener の使い方、　会話の練習 |
| 14 | 第10 課　疑問文　¿Cuántos ..？ ¿Qué ..？ ¿Cómo..？ ¿Dónde..?、 会話の練習　※ 学期末アンケート実施 |
| 15 | 年間学習内容のまとめ、確認テスト (2) |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:フランス語と文化Ⅰ | 担当者:中島　潤 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:受講者上限を50名とし、超えた場合は抽選とします | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>フランス語及びフランス語圏の文化について学びます。主に教科書を使って授業を進めていきますが、適宜、学生諸君の興味に合わせて、映画や音楽、芝居などの映像・音声などを使用したいと思っています。 |
| 授業の到達目標<br>簡単なフランス語を、読み・聞き・書き・話せるようになることが目標です。具体的には、実用フランス語技能検定５級合格程度のフランス語能力を身につけることになります。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修<br>フランス語を習得する上で、指示した練習問題を予習することが必要となります。さらに、学習したことの定着をはかるため、授業中に学習した事項の復習が必要になります。 |
| 評価方法<br>授業への参加態度２０％　確認テスト８０％ |

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 『新装　カフェ・フランセ』朝日出版社 | 特にありません |

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>語学の学習は継続が重要です。理解できない項目があったら、必ず質問するなど、問題点を解決してください。急がず焦らずにがんばってください。連絡先は授業で開示する。 |

| | |
|---|---|
| 01 | 授業の概要説明。アルファベなど。<br>簡単な単語の発音（日本語の中のフランス語）。<br>簡単な単語の発音（解説・発音練習・文法練習など）。<br>Leçon 1　自己紹介・国籍を言う（解説・発音練習・文法練習など）<br>授業の概要説明。アルファベなど。 |
| 02 | 簡単な単語の発音（日本語の中のフランス語）。 |
| 03 | 簡単な単語の発音（解説・発音練習・文法練習など）。 |
| 04 | Leçon 1　自己紹介・国籍を言う（解説・発音練習・文法練習など） |
| 05 | Leçon 1　元気かどうかをきく（解説・発音練習・文法練習など） |
| 06 | Leçon 1　数字（解説・発音練習・文法練習など） |
| 07 | Leçon 2　職業（解説・発音練習・文法練習など） |
| 08 | Leçon 2　住んでいるところについていう（解説・発音練習・文法練習など） |
| 09 | Leçon 2　聴き取り（解説・発音練習・文法練習など） |
| 10 | Leçon 3　国籍と否定形・言語（解説・発音練習・文法練習など） |
| 11 | Leçon 3　喫茶店の飲み物と食べ物（解説・発音練習・文法練習など） |
| 12 | 文化体験学習（International Day） |
| 13 | Leçon 3　注文しましょう（解説・発音練習・文法練習など） |
| 14 | Leçon 4　身の回りのもの・否定・兄弟（解説・発音練習・文法練習など） |
| 15 | Leçon 4　何歳ですか（解説・発音練習・文法練習など）・確認テスト |
| 16 | |

2018年度シラバス

| 科目名:フランス語と文化Ⅱ | 担当者:中島　潤 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:受講者上限を50名とし、超えた場合は抽選とします。 | | 単位数 | 1 |
| | | 必須. 選択 | 選択必須 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>前期からの継続です。フランス語及びフランス語圏の文化について学びます。主に教科書を使って授業を進めていきますが、適宜、学生諸君の興味に合わせて、映画や音楽、芝居などの映像・音声などを使用したいと思っています。 |
| 授業の到達目標<br>前期からの継続です。簡単なフランス語を、読み・聞き・書き・話せるようになることが目標です。具体的には、実用フランス語技能検定５級合格程度のフランス語能力を身につけることになります。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修<br>フランス語を習得する上で、指示した練習問題を予習することが必要となります。さらに、学習したことの定着をはかるため、授業中に学習した事項の復習が必要になります。 |
| 評価方法<br>授業への参加態度２０％　確認テスト８０％ |

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 『新装　カフェ・フランセ』朝日出版社 | 特にありません |

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>語学の学習は継続が重要です。理解できない項目があったら、必ず質問するなど、問題点を解決してください。急がず焦らずにがんばってください。連絡先は授業で開示する。 |

| | |
|---|---|
| 01 | Leçon 5　人物を描写する（解説・発音練習・文法練習など） |
| 02 | Leçon 5　国名（解説・発音練習・文法練習など） |
| 03 | Leçon 5　インタビュー（解説・発音練習・文法練習など） |
| 04 | Leçon 6　これはなんですか（解説・発音練習・文法練習など） |
| 05 | Leçon 6　物の位置（解説・発音練習・文法練習など） |
| 06 | Leçon 6　数字（解説・発音練習・文法練習など） |
| 07 | Leçon 7　定冠詞（解説・発音練習・文法練習など） |
| 08 | Leçon 7　好み嫌いの程度を言い表す（解説・発音練習・文法練習など） |
| 09 | Leçon 7　好み（解説・発音練習・文法練習など） |
| 10 | Leçon 8　色・洋服（解説・発音練習・文法練習など） |
| 11 | Leçon 8　どんな天気ですか（解説・発音練習・文法練習など） |
| 12 | Leçon 8　比較する（解説・発音練習・文法練習など） |
| 13 | Leçon 9　朝食（解説・発音練習・文法練習など） |
| 14 | Leçon 9　頻度の副詞（解説・発音練習・文法練習など） |
| 15 | Leçon 9　スポーツ（解説・発音練習・文法練習など）・確認テスト |
| 16 | |

2018年度シラバス

| 科目名:中国語と文化Ⅰ | 担当者:高　文軍　　布和 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:受講者は上限50名とし、超えた場合は抽選とします | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
この授業は初めて中国語を学習する学生を対象とする。発音の習得を重視しつつ、簡単な語彙や表現を身につけることを目指す。「グループワークとグループ発表」（全２回）。また、視聴覚資料を使って、中国文化に関する理解を深める。

授業の到達目標
基本発音を習得し、ピンインを読んで発声できる。中国語での挨拶や自己紹介、物の尋ね方と答え、疑問詞疑問文、形容詞表現、買い物など簡単な基本表現を、繰り返し練習することによって身につける。言語の他に、授業を通して中国文化の基本知識を少しずつ学んで心得る。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業時間内で学んだ内容の復習と次の事前予習。授業外の学習時間は前期を通して７時間とする。　映画、音楽、時事など中国文化に関することに関心を持つ。　課文ごとに小テストあり、各自で準備すること。

評価方法
　平常点（授業への参加、貢献度、宿題、小テストなど）　40%。　口頭テスト　10%。　　定期試験　50%。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 『初級中国語 教科書＋ドリル』 白帝社 | 『ことばの散歩道』Ⅰ～Ⅳ　白帝社 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
関心を持つことはマスタするには大事不可欠。　研究室は7号館7322室、オフィスアワーは、月曜日２限 メールアドレス：gaowj@ohkagakuen-u.ac.jp

| | |
|---|---|
| 01 | はじめに ようこそ　中国語の基本 声調 |
| 02 | 第１課 こんにちは 基本母音 変調 |
| 03 | 第２課 ありがとう 軽声 |
| 04 | 第３課 子音 練習 |
| 05 | 第４課 複母音 練習 |
| 06 | 第５課 みなさん、こんにちは |
| 07 | 听写（一）　発音まとめ　体験学習 |
| 08 | 第６課 テキストを開いてください |
| 09 | 第７課 元気ですか 代名詞（１）（人称） 疑問文と否定文 |
| 10 | 第８課 お名前は |
| 11 | 第９課 これは何ですか　代名詞(２)(物)、「是」の構文、疑問詞「什么」「誰」 |
| 12 | インターナショナルデイ |
| 13 | 第10課 誰のパソコンですか 「的」、副詞「也」「都」、听写（二） |
| 14 | まとめ、復習 口頭テスト |
| 15 | 確認テスト |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:中国語と文化Ⅱ | 担当者:高　文軍,布和 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:「中国語と文化Ⅰ」を修得した者 | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
この授業は初めて中国語を学習する学生を対象とする。発音の習得を重視しつつ、簡単な語彙や表現を身につけることを目指す。また、視聴覚資料を使って、中国文化に関する理解を深める。グループワークとグループ発表ある。

授業の到達目標
基本発音を習得した上、引き続き初歩的な中国語を学ぶ。物の尋ね方と答え、疑問など簡単な基本表現を、繰り返し練習することによって身につけ、自分の口から言える、使えることは究極的な目標である。映画鑑賞などを通じて、中国文化への理解をレポートで表現できる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業時間内で学んだ内容の復習と次の事前予習。授業外の学習時間は通して７時間とする。　映画、音楽、時事など中国文化に関することに関心を持つ。課文ごとに小テストあり、各自で準備すること。

評価方法
　平常点（授業への参加、貢献度、宿題、小テストなど）　40%。口頭テスト　10%。　　定期試験　50%。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 『初級中国語 教科書＋ドリル』 白帝社 | 『ことばの散歩道』Ⅰ～Ⅳ　白帝社 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
関心を持つことはマスタするには大事不可欠。 研究室は7号館7322室、オフィスアワーは、月曜日２限 メールアドレス：gaowj@ohkagakuen-u.ac.jp

| | |
|---|---|
| 01 | 前期要点チェック、復習 |
| 02 | 第11課　何を食べますか |
| 03 | 第12課　辞典を持っていますか |
| 04 | 第13課　何人家族ですか |
| 05 | 第14課　何月何日ですか |
| 06 | 第15課　何時ですか |
| 07 | 听写（三）単語練習　中国文化のあれこれ　グループワーク |
| 08 | 第16課　どうしましたか |
| 09 | 第17課　何歳ですか |
| 10 | 中国映画鑑賞 |
| 11 | プレゼンテーション　体験学習　中国のお茶（料理） |
| 12 | 第18課　いくらですか |
| 13 | 第19課　辞典を一冊あげます |
| 14 | 復習　口頭テスト |
| 15 | 確認テスト |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:韓国語と文化Ⅰ | 担当者:金　三淑 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力を高める一環として、韓国語と文化Ⅰでは韓国語の文字(ハングル)及び基礎文法を学びながら、簡単な日常会話を練習します。また、韓国の生きた文化に触れながら理解を深めていきます。International Dayには、グループで取り組んだ文化学修内容を発表します。

授業の到達目標
本授業は韓国語の「聞く・話す・読む・書く」基礎能力を身に付けることができるようになります。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：学修する課のCDを聞き、音読の練習をしてください。必要時間：約30分　事後学修：学修した単語を単語帳にまとめ、覚えてください。必要時間：約30分K-POP、ドラマなど韓国の文化と触れ合うことをお勧めします。

評価方法
授業への参加態度　30%、確認テスト　40%、課題　30%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 『即！実践　楽しもう韓国語』、金孝珍　著、白帝社 | |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
興味をもって学習をすすめることが大切だと考えます。積極的に取り組み、楽しく学んでいきましょう。オフィスアワー：授業の前後の時間

| | |
|---|---|
| 01 | ガイダンス |
| 02 | 文字編　第1課　基本母音 |
| 03 | 文字編　第２課　子音（１） |
| 04 | 文字編　第３課　子音（２）激音と濃音、ミニ会話 |
| 05 | まとめ、確認テスト（１）、International Dayの準備（文化学修） |
| 06 | 文字編　第４課　複合母音、辞書の順序、ミニ会話 |
| 07 | 文字編　第５課　終声（パッチム）、子音の名称 |
| 08 | まとめ、確認テスト（２）、文化体験Ⅰ　映画鑑賞① |
| 09 | 文化体験Ⅰ　映画鑑賞② |
| 10 | 文字編　第６課　発音の変化①、日本語のハングル表記、あいさつ言葉 |
| 11 | International Dayの準備（文化学修） |
| 12 | 7月3日　　文化体験Ⅱ（International Day）　　＊教室変更 |
| 13 | 会話編　第1課　저는 이동민입니다. 私はイ・ドンミンです。 |
| 14 | 会話編　第２課　　전공이 뭐예요? 専攻は何ですか。 |
| 15 | まとめ、確認テスト |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:韓国語と文化Ⅱ | 担当者:金　三淑,都　恩珍 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力を高める一環として、韓国語と文化Ⅱでは韓国語と文化Ⅰに引き続き韓国語の基礎文法を学びながら、簡単な日常会話及び自己紹介を練習します。授業は、テキストを中心に進めますが、ペアーワークで会話の練習をします。また、韓国のいろいろな生きた文化に触れながら理解を深めていきます。

授業の到達目標
本授業は韓国語の「聞く・話す・読む・書く」基礎能力を身に付けることができるようになります。みんなの前で自己紹介ができるようになります。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：学修する課のCDを聞き、音読の練習をしてください。必要時間：約30分事後学修：学修した単語を単語帳にまとめ、覚えてください。必要時間：約30分K-POP、ドラマなど韓国の文化と触れ合うことをお勧めします。

評価方法
授業への参加態度　30%、確認テスト　40%、練習帳・課題　30%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 『即！実践　楽しもう韓国語』、金孝珍　著、白帝社 | |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
興味をもって学習をすすめることが大切だと考えます。積極的に取り組み、楽しく学んでいきましょう。オフィスアワー：授業の前後の時間

| | |
|---|---|
| 01 | 前期の内容の復習 |
| 02 | 会話編　第３課①　　도서관 옆에 있습니다.　　図書館の横にあります。 |
| 03 | 会話編　第３課②　文化コーナー　人を呼ぶときの表現Ⅱ |
| 04 | まとめ、確認テスト |
| 05 | 会話編　第４課①　　토요일은 아르바이트를 합니다. 土曜日はアルバイトをします。 |
| 06 | 会話編　第４課②　　曜日のまとめ、語彙プラス |
| 07 | 確認テスト（２）（自己紹介）、文化体験Ⅰ　映画鑑賞① |
| 08 | 文化体験Ⅰ　映画鑑賞② |
| 09 | 会話編　第５課①　한국 영화를 좋아해요?　韓国映画が好きですか。<br><br>会話編　第５課①　한국 영화를 좋아해요?　韓国映画が好きですか。<br>第５課①　한국 영화를 좋아해요?　韓国映画が好きですか。 |
| 10 | 会話編　第５課②　ワークシート　합니다体と해요体 |
| 11 | 文化体験実習（パソコン室にて）、韓国の詩の紹介 |
| 12 | 会話編　第６課　　별로 안 멀어요. あまり遠くありません。 |
| 13 | 会話編　第７課①　생일이 언제예요?　誕生日はいつですか。 |
| 14 | 会話編　第７課②　생일이 언제예요?　誕生日の歌。 |
| 15 | まとめ、確認テスト |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:基礎演習Ⅰ | 担当者:田端　智美,寺田　恭子,石山　英明 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:PC持参 | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
保育に関わる基本を修得する。基本的なレポートの書き方を学ぶ。保育実践方法を学び、学生同士で模擬保育を行う。自信を持って子どもの前で保育ができるように、発表を行う。グループ協同活動を基礎単位とした学科運営行事を1回行う。

授業の到達目標
仲間と交流・協力することを軸として次の3つの力を身につける。①保育者としての基礎力（記述する・ICTスキル）②□保育者としての実践力(子どもの前で話す・演じる・教える)③発表する力(自分の意見を他人に伝える・人前で堂々と発表する)

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業・MOODLE・メール等で指示を行う積極的に絵本の読み聞かせや手遊びなどを練習し、保育実践力を高めてください

評価方法
提出課題の内容(50点)、発表を含んだ授業への参加態度(50点)として合計100点満点で評価する。

| 教科書<br>特になし | 参考図書<br>幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領、保育所保育指針 |
|---|---|

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段　代表tabata@ohkagakuen-u.ac.jp 積極的に授業に参加してください。

| | |
|---|---|
| 01 | 1基礎演習の概要説明(ゼミ内の取り決め・PC操作・メール操作)<br>2レポートの書き方講座・ポートフォリオについて<br>3レポートの書き方実践・GWの課題<br>4レポート(GW課題)の発表<br>5ボランティア講座・キャリアデザイン講座<br>6保育の技術を磨く１（制作遊びと模擬保育）<br>7保育の技術を磨く２（制作遊び英語ver.と模擬保育）<br>8保育の技術を磨く３（音楽遊びの模擬保育）<br>9保育の技術を磨く４（音楽遊び英語ver.の模擬保育）<br>10保育の技術を磨く５（ダンス遊びの模擬保育）<br>11保育の技術を磨く６（ダンス遊び英語ver.の模擬保育）<br>12保育の技術の発表会・保育技術のまとめ<br>13第1回学科運営行事開催<br>14夏休み課題の書き方の説明（文献提示等）<br>15まとめ(前期の振り返り・夏休みの課題の確認)<br>16なし<br><br>基礎演習の概要説明(ゼミ内の取り決め・PC操作・メール操作) |
| 02 | レポートの書き方講座・ポートフォリオについて |
| 03 | レポートの書き方実践・GWの課題 |
| 04 | レポート(GW課題)の発表 |
| 05 | ボランティア講座・キャリアデザイン講座 |
| 06 | 保育の技術を磨く１（制作遊びと模擬保育） |
| 07 | 保育の技術を磨く２（制作遊び英語ver.と模擬保育） |
| 08 | 保育の技術を磨く３（音楽遊びの模擬保育） |
| 09 | 保育の技術を磨く４（音楽遊び英語ver.の模擬保育） |
| 10 | 保育の技術を磨く５（ダンス遊びの模擬保育） |
| 11 | 保育の技術を磨く６（ダンス遊び英語ver.の模擬保育） |
| 12 | 保育の技術の発表会・保育技術のまとめ |
| 13 | 第1回学科運営行事開催 |
| 14 | 夏休み課題の書き方の説明（文献提示等） |
| 15 | まとめ(前期の振り返り・夏休みの課題の確認) |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:基礎演習Ⅰ | 担当者:根尾　文彦 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
本演習は学芸学部のディプロマポリシーにある修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力を身につけることが望まれる。大学生として今後の４年間を有意義なものにするための「大学生に求められるもの」、「大学で学ぶということは」、「大学でどのように過ごすのか」について基礎的な知識を身に付けることを目的とする。講義スタイルだけでなく、グループワーク、実習等を通して、より能動的な学習形態とする。

授業の到達目標
①大学生活における各自の目標を明確にし、そのアクションプランを構築できるようになる。②大学での自分なりの学修の仕方を習得する。③批判的思考ができ、理論的で創造的な発信ができる能力を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
①各自が設定した目標に向けて秩序ある大学生らしい生活を送る。②社会に対して関心を持ち、新聞、本、ＴＶなどから常に情報を収集する主観を身に付ける。

評価方法
授業への参加態度（50%）、レポート内容（40%）、キャリアデザインシート（10%）を総合して評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 特になし、その都度プリント等を配布する | 授業内で指示する |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先　neo@ohkagakuen-u.ac.jp研究室　7307号室　オフィスアワーは授業で公開する

| | |
|---|---|
| 01 | 基礎演習ガイダンス（自己紹介、シラバスの確認、キャンパス内の施設見学) |
| 02 | 「英語と私(何故)日本人は英語が苦手なのか」(学長の講話) |
| 03 | 大学生の基礎知識・情報 |
| 04 | 図書館及びＥＳＣガイダンス＜図書館課長、教務課担当＞ |
| 05 | 自分なりの大学生活設計（概論） |
| 06 | 自分なりの大学生活設計（キャリアデザインシート作成） |
| 07 | 自分なりの大学生活設計（キャリアデザインシートによる発表） |
| 08 | 大学での学習方法（ノートの取り方） |
| 09 | 大学での学習方法（テキストの読み方） |
| 10 | 大学での学習方法（レポートの書き方） |
| 11 | 大学での学習方法（情報収集の仕方） |
| 12 | フィールドワーク事前学習 |
| 13 | フィールドワーク（有松地区） |
| 14 | フィールドワーク（桶狭間地区） |
| 15 | フィールドワークのまとめ、レポート提出 |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:基礎演習Ⅰ | 担当者:松永　康史、上村　晶、小柳津　和博、金子　晃之、北島　信子、寺田　泰人、古畑　淳、堀　由里、森川　拓也 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:パソコン使用 | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
　本授業は大学での学習の基礎固めという位置づけで、アカデミックスキルズを中心に学んでいきます。特に、今後の学習の中で必要となる、文献・資料検索の方法、レジュメ・レポートの作成についてグループワーク等を取り入れながら学習していきます。また、自分がまとめたレジュメやレポートの発表を通して、自己発信力のトレーニングも行っていきます。さらに、授業内ではPCを使用しながら、タスクをこなしていくことで、基本的なICTスキルを身につけていきます。

授業の到達目標
　各人の学びの成果を発表し、ゼミメンバーの「考え方」に傾聴し共有すること、能動的に学習すること。ゼミメンバーと交流・協力することを軸として、①保育者基礎力（観察する力、洞察する力、記述する力）、②研究法（文献資料の検索・読み方・レポートの作成）、③ICTスキル（PCを用いて学習を展開するスキル）の基礎を獲得する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業、Moodle、メール等で毎回指示をする。

評価方法
　提出課題の内容60%、発表、討論の内容を含んだ授業への参加態度40%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 課題文献については授業内で指示する。 | 授業時に適宜紹介する。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　この科目は4年間の学びの基礎作りをする重要な科目であるため、積極的な取り組みをするよう心がけてください。

| | |
|---|---|
| 01 | 授業概要説明 |
| 02 | 教職履修カルテの説明 |
| 03 | 文献資料検索 |
| 04 | 子ども発見シートの発表と意見交換① |
| 05 | 子ども発見シートの発表と意見交換② |
| 06 | 文献輪読・レジュメ作成① |
| 07 | 文献輪読・レジュメ作成② |
| 08 | 文献輪読・レジュメ作成③ |
| 09 | 文献輪読・レジュメ作成④ |
| 10 | 文献輪読・レジュメ作成⑤ |
| 11 | 文献輪読・レポート作成 |
| 12 | レポートの発表と相互検討① |
| 13 | レポートの発表と相互検討② |
| 14 | 芸術鑑賞 |
| 15 | 前期の振り返り、夏休み、後期に向けて |
| 16 | |

2018年度シラバス

| 科目名:基礎演習Ⅰ | 担当者:柳田　綾 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:特になし | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
本演習では、大学生として今後の4年間を有意義なものにするための「大学生に求められるもの」、「大学で学ぶということ」、「大学でどのように過ごすか」について基礎的知識を身に付けることを目的とする。講義スタイルだけでなく、グループワーク、実習等を通してより能動的な学習形態とする。また情報の収集及びレポートの提出等はパソコンを通して行う。

授業の到達目標
①㋑学生活での各自の目標を明確にし、そのアクションプランを構築できるようになる。②㋺学での自分なりの学修の仕方を習得する。③㋩判的思考ができ、理論的で創造的な発信ができる能力を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
①㋐自が設定した目標に向けて秩序ある大学生らしい生活を送る。②㋩社会に対して関心をもち、新聞、本、ＴＶなどから常に情報を収集する習慣を身に付ける。

評価方法
授業への参加態度（50%）、レポート内容（40%）、キャリアデザインシート（10%）を総合して評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 特になし、その都度プリント等を配布する | 授業内で指示する |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①㋑学生活の基本となる授業なので積極的に取組む②㋥絡先　yanagida@ohkagakuen-u.ac.jp　研究室　7309号室　③□オフィスアワー　授業で公開する

| | |
|---|---|
| 01 | 基礎演習のガイダンス（自己紹介、シラバスの確認、キャンパス内の施設見学等） |
| 02 | 「英語と私（何故日本人は英語が苦手なのか）」（学長の講話） |
| 03 | 大学生の基礎知識・情報 |
| 04 | 図書館及びＥＳＣガイダンス＜宇井図課長、渡辺氏（教務課）＞ |
| 05 | 自分なりの大学生活設計（概論） |
| 06 | 自分なりの大学生活設計（キャリアデザインシート作成） |
| 07 | 自分なりの大学生活設計（キャリアデザインシートによる発表） |
| 08 | 大学での学習方法（ノートの取り方） |
| 09 | 大学での学習方法（テキストの読み方） |
| 10 | 大学での学習方法（レポートの書き方） |
| 11 | 大学での学習方法（情報収集の仕方） |
| 12 | フィールドワーク事前学修 |
| 13 | フィールドワーク（有松地区） |
| 14 | フィールドワーク（桶狭間地区） |
| 15 | フィールドワークのまとめ、レポート提出 |
| 16 | なし |

# 2018年度シラバス

| 科目名:基礎演習Ⅱ | 担当者:田端　智美,寺田　恭子 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
前期の「基礎演習Ⅰ」をさらに充実させ、応用的に学ぶ。保育実践として手遊び・絵本の読み聞かせを行い、ブックにまとめる。また前期の書き方を応用して、指定文献を読みまとめる。その後自らのテーマを設定しレポートを作成する。その事柄を発表し、意見交換を行う。グループ協同活動を基礎単位とした学科運営行事を1回行う。

授業の到達目標
友人と交流・協力することを軸として次の3つの力を身につける。①保育者としての基礎力・応用力（観察する・記述する・ICTスキル）②保育者としての実践力・応用力(子どもの前で話す・演じる・教える)③表現する力(自分の意見を、PPを使って他人に伝える・人前で堂々と発表する)

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業・MOODLE・メール等で指示を行う

評価方法
提出課題の内容(50点)、発表を含んだ授業への参加態度(50点)として合計100点満点で評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 特になし | 授業内で指示 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段　代表tabata@ohkagakuen-u.ac.jp 積極的に授業に参加してください。

| | |
|---|---|
| 01 | 基礎演習Ⅱの概要説明・夏休み課題の発表１(前半ｸﾞﾙｰﾌﾟ) |
| 02 | 夏休み課題の発表２(後半ｸﾞﾙｰﾌﾟ)・教職履修カルテの点検 |
| 03 | 絵本・手遊びブックの作成１（絵本の読み聞かせ実践含む) |
| 04 | 絵本・手遊びブックの作成２（手遊びの実践含む) |
| 05 | 指定文献資料の輪読と研究ノートの作成1（導入) |
| 06 | 指定文献資料の輪読と研究ノートの作成２(展開) |
| 07 | 指定文献資料の輪読と研究ノートの作成３（まとめ) |
| 08 | 指定文献資料の輪読と研究ノートの作成４（自らの課題設定) |
| 09 | 研究ノートに基づいたレポートの作成１(導入) |
| 10 | 10研究ノートに基づいたレポートの作成２（展開) |
| 11 | レポート発表（前半ｸﾞﾙｰﾌﾟ) |
| 12 | レポート発表（後半ｸﾞﾙｰﾌﾟ) |
| 13 | キャリアガイダンス　2年ゼミの説明と選択 |
| 14 | 第2回学科運営行事開催 |
| 15 | 基礎演習の活動の振り返り（ポートフォリオの作成 |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:基礎演習Ⅱ | 担当者:根尾　文彦 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須. 選択 | 必須 |

授業概要と方法
本演習では、大学生として今後の４年間を有意義なものにするための「大学生に求められるもの」、「大学で学ぶということは」、「大学でそのように過ごすか」について基礎的な知識を身に付けることを目的とする。講義スタイルだけでなく、グループワーク、実習等を通して、より能動的な学習形態とする。

授業の到達目標
①大学生活における各自の目標を明確にし、そのアクションプランを構築できるようになる。②大学での自分なりの学修の仕方を習得する。③批判的思考ができ、理論的で創造的な発信ができる能力を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
①各自が設定した目標に向けて秩序ある大学生らしい生活を送る。②社会に対して関心を持ち、新聞、本、ＴＶなどから常に情報を収集する主観を身に付ける。

評価方法
授業への参加態度（40%）、レポート（20%）、発表内容（20%）、ディベート（20%）を総合して評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 特になし、その都度プリント等を配布する | 授業内で指示する |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先　neo@ohkagakuen-u.ac.jp研究室　7307号室　　オフィスアワーは授業で公開する

| | |
|---|---|
| 01 | 夏休み課題レポートの発表　① |
| 02 | 夏休み課題レポートの発表　② |
| 03 | 実践的学内活動 |
| 04 | ディベートとは何か？ |
| 05 | テーマを決めてディベート　① |
| 06 | テーマを決めてディベート　② |
| 07 | 専門分野に関する時事問題（環境） |
| 08 | 専門分野に関する時事問題（ジェンダー） |
| 09 | 専門分野に関する時事問題（国際関係） |
| 10 | 専門分野に関する時事問題（異文化） |
| 11 | 専門教育分野に関するグループディスカッション |
| 12 | グループ内でのまとめ、資料作成　① |
| 13 | グループ内でのまとめ、資料作成　② |
| 14 | グループ内で資料作成及び発表 |
| 15 | グループ発表 |
| 16 | なし |

| 科目名:基礎演習Ⅱ | 担当者:松永　康史、上村　晶、小柳津　和博、金子　晃之、北島　信子、寺田　泰人、古畑　淳、堀　由里、森川　拓也 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:パソコン使用 | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
　本授業は「基礎演習Ⅰ」に引き続き、大学での学習の基礎固めという位置づけで、アカデミックスキルズを中心に学んでいきます。特に、今後の学習の中で必要となる、文献・資料の検索方法、レジュメ・レポートの作成についてグループワーク等を取り入れながら学習します。また、自分がまとめたレジュメやレポートの発表を通して、自己発信力のトレーニングも行っていきます。さらに、授業内ではPCを使用しながらタスクをこなしていくことで、基本的なICTスキルを身につけていきます。

授業の到達目標
　学びの成果を発表し、「考え方」に傾聴し共有すること、能動的に学習すること。ゼミメンバーと交流・協力することを軸として、①保育者基礎力（観察する力、洞察する力、記述する力）、②研究法（文献資料の検索・読み方・レポートの作成）、③ICTスキル（PCを用いて学習を展開するスキル）の基礎を獲得する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業、Moodle、メール等で毎回指示をする。

評価方法
提出課題の内容60%、発表、討論の内容を含んだ授業への参加態度40%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 課題文献については授業内で指示する。 | 授業時に適宜紹介する。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

| | |
|---|---|
| 01 | 教職履修カルテの振り返り、学外体験の報告① |
| 02 | 教職履修カルテの振り返り、学外体験の報告② |
| 03 | 教職履修カルテの振り返り、学外体験の報告③ |
| 04 | 文献輪読・レジュメ作成① |
| 05 | 文献輪読・レジュメ作成② |
| 06 | 文献輪読・レジュメ作成③ |
| 07 | 文献輪読・レジュメ作成④ |
| 08 | 文献輪読・レジュメ作成⑤ |
| 09 | 文献輪読・レポート作成① |
| 10 | 文献輪読・レポート作成② |
| 11 | レポートの発表と相互検討① |
| 12 | レポートの発表と相互検討② |
| 13 | 子ども発見シートの発表と意見交換① |
| 14 | 子ども発見シートの発表と意見交換② |
| 15 | 後期の振り返り、2年生に向けて |
| 16 | |

2018年度シラバス

| 科目名:基礎演習Ⅱ | 担当者:柳田　綾 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:特になし | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>本演習では、前期の基礎演習Ⅰで学んだことに基づいてより深く専門的な学修方法について学び、自分で課題を見つける力、その課題に対して取り組む力及びまとめる力を実学修を通して習得する。講義スタイルだけでなく、フィールドワーク、グループワーク等を通してより能動的な学習形態とする。 |
| 授業の到達目標<br>①前期で設定した大学生活アクションプランを具体的に実践できるようになる。②2年次以降の専門教育に繋がる基礎知識を習得する。③批判的思考ができ、理論的で創造的な発信ができる能力を身に付ける。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修<br>①各自が設定した目標に向けて秩序ある大学生らしい生活を送る②社会に対して関心をもち、新聞、本、ＴＶなどから常に情報を収集する習慣を身に付ける。 |
| 評価方法<br>授業への参加態度（40%）、レポート（20%）、発表内容（20%）、ディベート（20%）を総合して評価する。 |

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 特になし、その都度プリント等を配布する | 授業内で指示する |

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>①自分の専門性を見出せるように、社会に関心を持ち様々な情報を収集する。②連絡先　yanagida@ohkagakuen-u.ac.jp　研究室　7309号室③団フィスアワーは授業内で公開する |

| | |
|---|---|
| 01 | 夏休み課題レポートの発表　① |
| 02 | 夏休み課題レポートの発表　② |
| 03 | 実践的学内活動 |
| 04 | ディベートとは何か？ |
| 05 | テーマを決めてディベート　① |
| 06 | テーマを決めてディベート　② |
| 07 | 専門教育分野に関する時事問題（環境） |
| 08 | 専門教育分野に関する時事問題（ジェンダー） |
| 09 | 専門分野に関する時事問題（国際関係） |
| 10 | 専門分野に関する時事問題（異文化） |
| 11 | 専門分野に関するグループディスカッション |
| 12 | グループ内でのまとめ、資料作成　① |
| 13 | グループ内でのまとめ、資料作成　② |
| 14 | グループで資料作成及び発表 |
| 15 | グループ発表 |
| 16 | なし |

# 2018年度シラバス

| 科目名:インターンシップA | 担当者:Donovan Clarke | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期・後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限:Computer needed for presentation | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
Overview and Methods:This course is related to the ability to understand language and other cultures as mentioned in SLADE's diploma policy. Students participate in an overseas internship programs provided by international organizations, international NGOs, foreign companies, tourism companies, etc, to enhance their global experience. Examples include; TESOL practicum, Hotel internship, Early learning practicum, joining activities protecting the environment as a member of an NGO.

授業の到達目標
Goals/Objective of Course: The goal of this course is to give students valuable overseas experience that they can use when looking for employment or in other areas of their life.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements:The Overseas Internship program has to have at least 5 days (20 hours) of internship. Students must submit the letter of admission from the foreign institution / organization or join an established internship program. They must also submit a statement of purpose. Students must keep in contact with the instructor and give up-dates via e-mail during the internship program oversees. Upon the completion of the internship program, students are required to submit a portfolio, journal and proof of internship from the foreign country internship institute/organization. Students must make an open presentation of their internship experience.Students are allowed to take a maximum of four (4) Overseas Internship credits. Within a single grading period (semester), students are allowed to combine several Overseas Internships into one, giving only one presentation covering all the internships she attended.

評価方法
Evaluation Methods: Actively participate in the internship program - 50% Portfolio - 20%, Journal - 10% Presentation - 20%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| Textbooks: supplies as needed | Reference Books and other Course Materials: supplies as needed |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Other: (Advice to students, Contact information)Students need to contact Overseas Internship and Academic Affairs Committee members about the overseas internship program. Students need to work closely with these committee members through the entire overseas internship process.Donovan Clarke's office is 7308 and his office hours will be announced. His e-mail is clarke@ohkagakuen-u.ac.jp Any questions about the course should be discussed with Donovan and Academic Affairs Committee members. Students need to have access to a computer, the Internet and have Internet research skills.

| | |
|---|---|
| 01 | To be developed for each volunteer actively on a case by case basis |
| 02 | |
| 03 | |
| 04 | |
| 05 | |
| 06 | |
| 07 | |
| 08 | |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

2018年度シラバス

| 科目名:インターンシップB | 担当者:Donovan Clarke | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期・後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限:Computer needed for presentation | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
Overview and Methods:This course is related to the ability to understand language and other cultures as mentioned in SLADE's diploma policy. Students participate in an overseas internship programs provided by international organizations, international NGOs, foreign companies, tourism companies, etc, to enhance their global experience. Examples include; TESOL practicum, Hotel internship, Early learning practicum, joining activities protecting the environment as a member of an NGO.

授業の到達目標
Goals/Objective of Course: The goal of this course is to give students valuable overseas experience that they can use when looking for employment or in other areas of their life.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements:The Overseas Internship program has to have at least 10 days (40 hours) of internship. Students must submit the letter of admission from the foreign institution / organization or join an established internship program. They must also submit a statement of purpose. Students must keep in contact with the instructor and give up-dates via e-mail during the internship program oversees. Upon the completion of the internship program, students are required to submit a portfolio, journal and proof of internship from the foreign country internship institute/organization. Students must make an open presentation of their internship experience.Students are allowed to take a maximum of four (4) Overseas Internship credits. Within a single grading period (semester), students are allowed to combine several Overseas Internships into one, giving only one presentation covering all the internships she attended.

評価方法
Evaluation Methods: Actively participate in the internship program - 50% Portfolio - 20%, Journal - 10% Presentation - 20%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| Textbooks: To be supplied as needed | Reference Books and other Course Materials: To be supplied as needed |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Other: (Advice to students, Contact information)Students need to contact Overseas Internship and Academic Affairs Committee members about the overseas internship program. Students need to work closely with these committee members through the entire overseas internship process.Donovan Clarke's office is 7308 and his office hours will be announced. His e-mail is clarke@ohkagakuen-u.ac.jp Any questions about the course should be discussed with Donovan and Academic Affairs Committee members. Students need to have access to a computer, the Internet and have Internet research skills.

| | |
|---|---|
| 01 | To be developed for each volunteer actively on a case by case basis |
| 02 | |
| 03 | |
| 04 | |
| 05 | |
| 06 | |
| 07 | |
| 08 | |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

# 2018年度シラバス

| 科目名:インターンシップC | 担当者:Donovan Clarke | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期・後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限:Computer needed for presentation | | 単位数 | 3 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
Overview and Methods:This course is related to the ability to understand language and other cultures as mentioned in SLADE's diploma policy. Students participate in an overseas internship programs provided by international organizations, international NGOs, foreign companies, tourism companies, etc, to enhance their global experience. Examples include; TESOL practicum, Hotel internship, Early learning practicum, joining activities protecting the environment as a member of an NGO.

授業の到達目標
Goals/Objective of Course: The goal of this course is to give students valuable overseas experience that they can use when looking for employment or in other areas of their life.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements:The Overseas Internship program has to have at least 15 days (60 hours) of internship. Students must submit the letter of admission from the foreign institution / organization or join an established internship program. They must also submit a statement of purpose. Students must keep in contact with the instructor and give up-dates via e-mail during the internship program oversees. Upon the completion of the internship program, students are required to submit a portfolio, journal and proof of internship from the foreign country internship institute/organization. Students must make an open presentation of their internship experience.Students are allowed to take a maximum of four (4) Overseas Internship credits. Within a single grading period (semester), students are allowed to combine several Overseas Internships into one, giving only one presentation covering all the internships she attended.

評価方法
Evaluation Methods: Actively participate in the internship program - 50% Portfolio - 20%, Journal - 10% Presentation - 20%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| Textbooks: To be supplied as needed | Reference Books and other Course Materials: To be supplied as needed |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Other: (Advice to students, Contact information)Students need to contact Overseas Internship and Academic Affairs Committee members about the overseas internship program. Students need to work closely with these committee members through the entire overseas internship process.Donovan Clarke's office is 7308 and his office hours will be announced. His e-mail is clarke@ohkagakuen-u.ac.jp Any questions about the course should be discussed with Donovan and Academic Affairs Committee members. Students need to have access to a computer, the Internet and have Internet research skills.

| | |
|---|---|
| 01 | To be developed for each volunteer actively on a case by case basis |
| 02 | |
| 03 | |
| 04 | |
| 05 | |
| 06 | |
| 07 | |
| 08 | |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

2018年度シラバス

| 科目名:インターンシップD | 担当者:Donovan Clarke | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期・後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限:Computer needed for presentation | | 単位数 | 4 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
Overview and Methods:This course is related to the ability to understand language and other cultures as mentioned in SLADE's diploma policy. Students participate in an overseas internship programs provided by international organizations, international NGOs, foreign companies, tourism companies, etc, to enhance their global experience. Examples include; TESOL practicum, Hotel internship, Early learning practicum, joining activities protecting the environment as a member of an NGO.

授業の到達目標
Goals/Objective of Course: The goal of this course is to give students valuable overseas experience that they can use when looking for employment or in other areas of their life.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements:The Overseas Internship program has to have at least 20 days (80 hours) of internship. Students must submit the letter of admission from the foreign institution / organization or join an established internship program. They must also submit a statement of purpose. Students must keep in contact with the instructor and give up-dates via e-mail during the internship program oversees. Upon the completion of the internship program, students are required to submit a portfolio, journal and proof of internship from the foreign country internship institute/organization. Students must make an open presentation of their internship experience.Students are allowed to take a maximum of four (4) Overseas Internship credits. Within a single grading period (semester), students are allowed to combine several Overseas Internships into one, giving only one presentation covering all the internships she attended.

評価方法
Evaluation Methods: Actively participate in the internship program - 50% Portfolio - 20%, Journal - 10% Presentation - 20%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| Textbooks: To be supplied as needed | Reference Books and other Course Materials: To be supplied as needed |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Other: (Advice to students, Contact information)Students need to contact Overseas Internship and Academic Affairs Committee members about the overseas internship program. Students need to work closely with these committee members through the entire overseas internship process.Donovan Clarke's office is 7308 and his office hours will be announced. His e-mail is clarke@ohkagakuen-u.ac.jp Any questions about the course should be discussed with Donovan and Academic Affairs Committee members. Students need to have access to a computer, the Internet and have Internet research skills.

| | |
|---|---|
| 01 | To be developed for each volunteer actively on a case by case basis |
| 02 | |
| 03 | |
| 04 | |
| 05 | |
| 06 | |
| 07 | |
| 08 | |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

2018年度シラバス

| 科目名:日本語表現Ⅰ | 担当者:入口　愛 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
　「日本語表現」科目では、大学生に必要な日本語運用スキルを身につけることを目的とする。「日本語表現Ⅰ」では、「話す・聞く」の言語活動に重点を置き、実践を通してその基礎力を養う。授業では、学内でインタビューを実施し、その成果を発表する。さらに、インタビューさせていただいた方へのお礼状を作成することを通して、敬語および手紙の知識を身につける。また、漢字テストを実施することで漢字の知識を増やす。

授業の到達目標
　・場面や相手に応じて適切なことばを選択し、使用することができる。　・伝えたいことがらを精確な表現で相手に伝えることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　漢字の学習に取り組むこと。

評価方法
　提出課題：20%、発表および報告会での発言：30%、インタビュー活動：30%、漢字テスト：20%をふまえ、総合的に評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 松浦照子 ほか『実践 日本語表現』ナカニシヤ出版、日本漢字能力検定協会『漢検10日間でできる練習問題 準2級』松浦照子 ほか『実践 日本語表現』ナカニシヤ出版、日本漢字能力検定協会『漢検10日間でできる練習問題 準2級』 | 特になし |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業担当者との連絡は原則としてメールにておこなう。欠席する場合は、必ず授業担当者へ連絡すること。メールアドレスは授業にて通知する。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション　プレテストの実施 |
| 02 | インタビューする際に適切な表現を学ぶ（敬語の基礎） |
| 03 | インタビューする際に適切な表現を学ぶ（敬語の応用） |
| 04 | インタビューの訪問先およびグループメンバーを決定する |
| 05 | インタビューにおける質問項目の決定する |
| 06 | アポイントメントを取る　「聴く」こととはどのようなことかを理解する |
| 07 | インタビューを実施する |
| 08 | 手紙における適切な表現を学ぶ |
| 09 | お礼状を書く |
| 10 | 葉書における適切な表現を学ぶ |
| 11 | インタビューの内容をまとめる |
| 12 | 報告会のレジュメを作成する |
| 13 | 発表の仕方を学ぶ |
| 14 | 報告会にて成果を発表する |
| 15 | 報告会にて成果を発表する（続き）および漢字確認テスト |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:日本語表現Ⅱ | 担当者:入口　愛 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須. 選択 | |

授業概要と方法
　「日本語表現」科目では、大学生に必要な日本語運用スキルを身につけることを目的とする。「日本語表現Ⅱ」では、ブックレポートの作成を通じて、適切な資料を選択するスキルを身につけるとともに、読む力、書く力を高める。また、漢字テストを実施することで漢字の知識を増やす。

授業の到達目標
・テーマに即した図書資料を適切に選択できる。・図書資料からテーマに関する部分を選択でき、かつ的確に要約することができる。・レポート作成に必要な基礎知識を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
漢字の学習に取り組むこと。

評価方法
　ブックレポート：30%、提出課題：20%、授業への参加態度：20%、漢字テスト：20%、ポスター：10%をふまえ、総合的に評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 松浦照子 ほか『実践 日本語表現』ナカニシヤ出版、日本漢字能力検定協会『漢検10日間でできる練習問題 準2級』 | 特になし |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業担当者との連絡は原則としてメールにておこなう。欠席する場合は、必ず授業担当者へ連絡すること。メールアドレスは授業にて通知する。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション　マイストーリーを書く |
| 02 | ブックレビューをポスターにする〈準備〉 |
| 03 | ブックレビューをポスターにする〈作成〉 |
| 04 | ブックレビューをポスターにする〈交流〉 |
| 05 | 〈ブックレポート〉読む技術を知る　あらまし読みをする |
| 06 | 〈ブックレポート〉レポートの表現を学ぶ（話しことばと書きことば） |
| 07 | 〈ブックレポート〉要約の方法を学ぶ |
| 08 | 〈ブックレポート〉共通点・相違点を考える |
| 09 | 〈ブックレポート〉レポートの問いを立て、資料を選択し、あらまし読みをする |
| 10 | 〈ブックレポート〉資料を精読する |
| 11 | 〈ブックレポート〉資料の要約 |
| 12 | 〈ブックレポート〉共通点・相違点を導出する |
| 13 | 〈ブックレポート〉引用のルールを理解する |
| 14 | 〈ブックレポート〉レポートを作成する |
| 15 | 授業のまとめおよび漢字確認テスト |
| 16 | なし |

| 科目名:日本語表現Ⅲ | 担当者:入口　愛 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
　「日本語表現」科目では、大学生に必要な日本語運用スキルを身につけることを目的とする。「日本語表現Ⅲ」では、実践を通して学術的な文章を書く力を養う。さらに、毎時おこなう課題を通して、ことばの知識を増やし、さらに時事問題への関心を高める。授業では、新聞記事を用いて意見文を作成する。また、漢字テストを実施することで漢字の知識を増やす。

授業の到達目標
・文章表現上の基礎知識を知り、学術的な文章を書くことができる。・資料の概要を正確に読みとることができる。・ことばに関する知識を増やし、かつ時事問題への関心を高め、日常生活で活かすことができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
漢字の学習に取り組むこと。可能な限り、新聞に目を通すこと。

評価方法
提出課題：60%、授業への参加態度：20%、漢字テスト：20%をふまえ、総合的に評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 松浦照子 ほか『実践 日本語表現』ナカニシヤ出版、日本漢字能力検定協会『漢検10日間でできる練習問題 2級』 | 特になし |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業担当者との連絡は原則としてメールにておこなう。欠席する場合は、必ず授業担当者へ連絡すること。メールアドレスは授業にて通知する。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション　プレテストの実施 |
| 02 | 新聞を活用する　“新聞わーく”の作り方 |
| 03 | 敬語の再確認（尊敬語）　イメージをことばで伝える |
| 04 | 敬語の再確認（謙譲語）　学内の風景をことばで説明する |
| 05 | 敬語の再確認（丁寧語・美化語）　分かりやすい説明に必要なことを理解する |
| 06 | パラフレーズを考える（和語と漢語） |
| 07 | パラフレーズを考える（簡潔な表現） |
| 08 | パラフレーズを考える（名詞化） |
| 09 | 新聞を活用する　投書欄を読む |
| 10 | 新聞を活用する　投書欄から時代を考える |
| 11 | 新聞を活用する　社説を読む |
| 12 | 賛否両論のあるテーマを考える（ブレーンストーミング） |
| 13 | 賛否両論のあるテーマを考える（自分の意見をまとめる） |
| 14 | 賛否両論のあるテーマを考える（意見文を書く） |
| 15 | 授業のまとめおよび漢字確認テスト |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:日本語表現Ⅳ | 担当者:入口　愛 | 開講学科等 | 桜大共通 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須. 選択 | |

授業概要と方法
　「日本語表現」科目では、大学生に必要な日本語運用スキルを身につけることを目的とする。「日本語表現Ⅳ」では、実践を通して考える力、書く力を総合的に高める。また、「いま」の自分をふり返り、ことばによって自分を捉える。授業では、新聞記事等の複数の資料を用いて多角的にテーマについて考え、自分の見解を発表する。また、漢字、敬語、時事問題に関する問題を毎時実施し、その知識を増やす。

授業の到達目標
・複数の資料を読み、テーマについて多角的に考えることができる。・場面にあった適切な表現で、伝えるべきことがらを相手に伝えることができる。・的確に自己分析したうえで、自分とは何者かをことばで表現することができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
漢字の学習に取り組むこと。可能な限り、新聞に目を通すこと。

評価方法
提出課題：50%、授業への参加態度：20%、自己分析：10%、漢字テスト：20%をふまえ、総合的に評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 松浦照子 ほか『実践 日本語表現』ナカニシヤ出版、日本漢字能力検定協会『漢検10日間でできる練習問題 2級』 | 特になし |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業担当者との連絡は原則としてメールにておこなう。欠席した場合は、必ず授業担当者へ連絡すること。メールアドレスは授業にて通知する。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション |
| 02 | 自分をかたちづくることばを探す |
| 03 | ことばをポスターにする |
| 04 | 互いのポスターを鑑賞する |
| 05 | 〈自己分析〉自分史を書く |
| 06 | 〈自己分析〉学生生活をふりかえる |
| 07 | 〈自己分析〉自分の強みを考える |
| 08 | 〈自己分析〉自分とは何者かを文章化する |
| 09 | 「定義する」ことの重要性を理解する |
| 10 | 定義の方法を学ぶ |
| 11 | 定義をしたうえで、意見を述べる（資料を読み、整理する） |
| 12 | 定義をしたうえで、意見を述べる（意見文を作成する） |
| 13 | 時事問題を考える（資料の読解および整理） |
| 14 | 時事問題を考える（自分の意見をまとめる） |
| 15 | 時事問題を考える（意見文を作成する）および漢字確認テスト |
| 16 | なし |